



ENVI5.6 / IDL8.8 インストールガイド

目次

はじめに	1
本製品をインストールするにあたって	1
サポートプラットフォーム	1
ENVI/IDL サポートプラットフォーム	1
Flexnet License Server サポートプラットフォーム	2
既知の問題	2
デフォルトのインストールディレクトリについて	3
製品が使用できるまでの流れ	4
新規ご購入の場合	4
バージョンアップの場合	5
Download and License Center アカウント申請	6
Download and License Center にログインする	6
製品のダウンロード	9
ソフトウェアのインストール方法	11
Windows へのインストール方法	11
Linux へのインストール方法	15
Macintosh へのインストール方法	18
ルートユーザを有効にする方法	20
ログイン方法	21
自動ログインの設定を解除する方法	21
ソフトウェアのライセンス設定	22
認証コードを確認する	22
License Administrator とは	23
License Administrator の起動方法	23
マシン固定ライセンスとして認証する	24
ライセンスサーバとして認証する	25
ライセンスサーバ認証の注意事項	25
Flexnet License Server をダウンロードする	25
Flexnet License Server をインストールする	25
ライセンス認証する	30
クライアントとしてライセンス認証する	32
ソフトウェアの起動方法	33
Windows の場合	33
ENVI の起動方法	33
IDL の起動方法	33
Linux の場合	33
環境の設定	33
ENVI 起動コマンド	35
IDL 起動コマンド	35
Macintosh の場合	35

Applescript からの実行	36
ターミナルからの実行	36
ライセンスサーバの管理（ライセンス管理者用）	38
Flexnet License Server のインストール	38
Flexnet License Server のアンインストール	38
Windows の場合	38
Linux の場合	38
ライセンスの認証	39
有効なライセンスフィーチャーを確認する	39
Windows の場合	39
Linux の場合	41
ライセンスサーバサービスの管理	42
Windows の場合	42
Linux の場合	42
ライセンスを無効化する	43
マシン固定ライセンスの場合	43
License Administrator から変更する	43
ライセンスサーバの場合	43
License Administrator から変更する	43
Appendix	44
ENVI / IDL のアンインストール手順	44
コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する	45
マシン固定ライセンスとして認証する	45
ライセンスサーバとして認証する	46
クライアントとしてライセンス認証する	48
コマンドラインを使ってライセンスを無効化する	48
マシン固定ライセンスの場合	48
ライセンスサーバの場合	49
マシンを変更する	50
ライセンス数を変更する	51
ライセンスの借用（Borrow）	51
ライセンスの借用と返却	51
故障などでマシンにアクセスできなくなった場合	53
お問い合わせ先	54

はじめに

本書では、ENVI5.6/IDL8.8のインストールとライセンス設定の手順を記載いたします。また、ネットワーク環境でライセンスを管理する方法に関するガイダンスを提供するとともに、複数のクライアントが参照するライセンスサーバの設定方法と独自のライセンス処理方法についての一般的な質問にお答えします。なお、本書で問題を解消できなかった場合は、support_jp@L3harris.comよりお問い合わせください。

本製品をインストールするにあたって

ここでは、ENVI5.6/IDL8.8 をインストールするにあたって、事前にご確認いただく内容について記載します。

サポートプラットフォーム

ENVI/IDL サポートプラットフォーム

ENVI5.6/IDL8.8 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。

これからソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはインターネット接続が必要になります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン ^b
Windows	Intel / AMD 64-bit ^a	Windows	10
Macintosh	Intel 64-bit	OS X	10.14, 10.15 ^c
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 3.10.0 glibc 2.17

a: Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの ENVI/IDL を起動する場合は、P33 の「ソフトウェアの起動方法」をご確認ください。

b: サポートバージョン中の記載は、ENVI/IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されます。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.7.11 にて動作確認をしております。

推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help の表示には HTML5 対応ブラウザを必要とします。

また、現行の ENVI の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	4GB
メモリ	8GB
CPU	最小 2Core 推奨 4Core 以上

Flexnet License Server サポートプラットフォーム

Flexnet ライセンスサーバのサポートプラットフォームを以下の表に示します。

ENVI/IDL のライセンスサーバ (Flexnet License Server) をインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。また、ライセンス認証にはインターネット接続が必要になります。

オペレーティングシステム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64-bit	x86-64	Windows Server 2008 R2, 2012 R2 Windows 8, 10
Linux	x86-64	CentOS 6.x CentOS 7.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.x Ubuntu 16

また、現行の Flexnet License Server 2017.08 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
DISK	500MB
RAM	4 GB
CPU	2GHz – 2 Cores

既知の問題

本製品をインストールしていただくにあたり、以下に既知の問題点を記載いたします。回避策を行っても問題が解決されない場合は support_jp@L3harris.com までお問い合わせください。

1. マルチバイト文字を使用したディレクトリにインストールした場合、IDL ワークベンチが起動しない原因となります。

ENVI / IDL をマルチバイト文字が入ったディレクトリへインストールした場合、idlde.ini

ファイルへのパス名が正しく認識されない可能性があります。

回避策 (64bit 版) :

<INSTALL_DIR>%IDLxx¥bin¥bin.x86_64¥idlde.ini ファイルの以下行のパス情報を編集してください。

2 行目: <INSTALL_DIR>%IDLxx¥bin¥bin.x86_64¥jre¥bin

14 行目: <INSTALL_DIR>%IDLxx¥bin¥bin.x86_64¥configuration

※xx はバージョンを示します。

2. cannot restore segment prot after reloc: Permission denied

セキュリティが強化されている Linux で、cannot restore segment prot after reloc: Permission denied のエラーにより IDL が起動できない場合があります。最近の Linux の一部のバージョンは Linux Security Modules framework を使用し Linux カーネルで強制アクセスコントロールが実装されています。その様な環境で IDL を動作させるためには IDL バイナリのためにセキュリティの編集が必要です。SELinux を”disable”と設定するか、IDL が動作できるようにセキュリティを変更してください。

詳細 :

<https://www.harrisgeospatial.com/Support/Self-Help-Tools/Help-Articles/Help-Articles-Detail/ArtMID/10220/ArticleID/19352/3092>

3. Linux は 64bit ライブラリのインストールが必要です。

RedHat では libXp、libXpm、libXmu の 64bit バージョンのパッケージが必要です。そのライブラリは RHEL や Fedora など Red Hat を基本とした Linux ではデフォルトでインストールされておりません。

以下のコマンドで必要なライブラリをインストールすることが可能です。

```
yum install libXp.x86_64
```

```
yum install libXpm.x86_64
```

```
yum install libXmu.x86_64
```

デフォルトのインストールディレクトリについて

ENVI5.3 SP1 以前のデフォルトインストールディレクトリとは異なりますのでご注意ください。インストールディレクトリはインストール時に任意の場所に指定することができますので、以前のバージョンのインストールディレクトリにインストールすることも可能です。ENVI5.6 のデフォルトのインストールディレクトリは以下になります。

Windows の場合 : C:¥Program Files¥Harris

Linux の場合 : /usr/local/harris

Macintosh の場合 : /Applications/harris

製品が使用できるまでの流れ

新規ご購入の場合

1. ご購入と納品

弊社から製品をご購入いただきますと、本紙、簡易手順書、各種書類をご郵送にてお届けいたします。

2. Harris Download and License Center アカウント申請

P6「Download and License Center アカウント申請」の手順で、当社 WEB サイトより Harris Download and License Center への新規アカウント申請を行ってください。Harris Download and License Center ではお客様のライセンス情報の確認と、製品のダウンロードを行っていただけます。

3. Harris Download and License Center にログインする

アカウントをご申請いただくとご申請いただいたメールアドレス宛に Harris Download and License Center から以下の 2 種類のメールが送信されます。メールを確認して Harris Download and License Center にログインしてください。

- ①「Harris Download and License Center へようこそ」という件名のメール
Harris Download and License Center のログイン ID を確認してください。また、Password Finder のリンクよりパスワードを設定してください。
- ②「Maintenance ID...」のように件名が Maintenance ID から始まるメール
ご購入いただいたライセンス一覧と、ライセンス認証コードをご案内いたします。ライセンス認証コードは製品インストール後のソフトウェアライセンスの設定で使用します。

4. Harris Download and License Center から製品ダウンロード

P9「製品のダウンロード」の手順で、製品をダウンロードしてください。

5. 製品のインストール

P11「ソフトウェアのインストール方法」に従い、インストールする OS に応じた手順でインストールしてください。

6. ソフトウェアライセンスの設定

P22「ソフトウェアのライセンス設定」に従い、ご希望のライセンス形態に応じた手順でライセンス認証を実施し、製品を使えるようにします。

7. 製品の起動

P33「ソフトウェアの起動方法」に従い、起動する OS に応じた手順で製品を起動してください。

バージョンアップの場合

1. バージョンアップ申請

P6「Download and License Center アカウント申請」の手順で、当社 WEB サイトよりバージョンアップ申請を行ってください。お客様のご登録情報とライセンス保守契約の確認をさせていただきます。

2. バージョンアップしたライセンスの認証コードを確認する

バージョンアップ申請が処理されるとライセンス管理者としてご登録いただいているメールアドレス宛に Harris Download and License Center からライセンス認証コードと保守契約期限を記載したメールが送信されます。**認証コードはバージョンアップに伴い更新され、新しい認証コードが送信されます。**

①「Maintenance ID...」のように件名が Maintenance ID から始まるメール

ご購入いただいているライセンス一覧と、ライセンス認証コードをご案内いたします。ライセンス認証コードは製品インストール後のソフトウェアライセンスのバージョンアップ設定で使用します。

3. Harris Download and License Center から製品ダウンロード

P9「製品のダウンロード」の手順で、製品をダウンロードしてください。

Harris Download and License Center のアカウントは新規ご購入時に設定したものをご利用ください。

4. 製品のインストール

P11「ソフトウェアのインストール方法」に従い、インストールする OS に応じた手順でインストールしてください。

5. ソフトウェアライセンスバージョンアップの設定

P22「ソフトウェアのライセンス設定」に従い、ご希望のライセンス形態に応じた手順でライセンス認証を再実施すると、お手持ちのライセンスのバージョン情報が更新されます。同一マシン上で同一認証コードの再認証する際は、一旦 Deactivate する必要はなく、そのまま Activate を実施して問題ありません。

6. 製品の起動

P33「ソフトウェアの起動方法」に従い、起動する OS に応じた手順で製品を起動してください。

Download and License Center アカウント申請

ご購入いただいたライセンスの情報の確認と製品のダウンロードのために Harris Download and License Center へのログインが必要です。ログイン ID とパスワードを入手するために以下の手順で当社 WEB サイトからアカウントを申請してください。

1. 以下の URL にアクセスしてください。

【Harris Download and License Center アカウント申請 URL】

http://www.harrisgeospatial.co.jp/register_newlic_jp.aspx

2. WEB ページに従って、申請種別を選択して申請フォームに入力し、送信ボタンをクリックしてください。初めてライセンスを発行される方は、新規に、すでにライセンスをご利用で新バージョンのご利用を希望されるかたはバージョンアップ申請を選択してください。

Download and License Center にログインする

新規ご購入の方は、前項の「Download and License Center アカウント申請」の手順にてアカウント申請を行っていただくと、Harris Download and License Center から 2 種類のメールが送信されます。「Harris Download and License Center へようこそ」のメールをご確認いただき、以下の手順で Harris Download and License Center にログインしてください。

1. Harris Download and License Center からの「Harris Download and License Center へようこそ」という件名のメールを開いて、お名前とログイン ID を確認してください。

※メールを受信していない場合、またはメール内のお名前に見覚えがない場合は、お手数ですが、support_jp@L3harris.com までお問い合わせください。

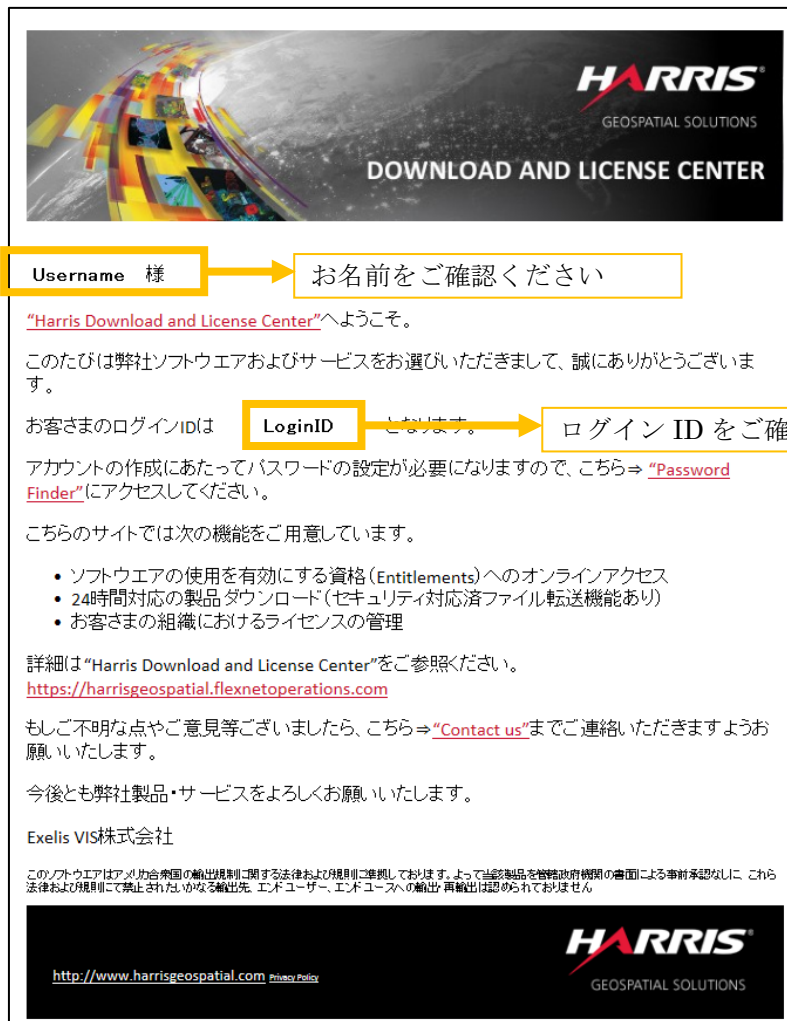


図 1 : Harris Download and License Center へようこそ

2. メール内の Password Finder のリンクをクリックして WEB ブラウザで Password Finder のページを表示します。ご登録いただいているメールアドレスを入力し、Submit ボタンをクリックしてください。

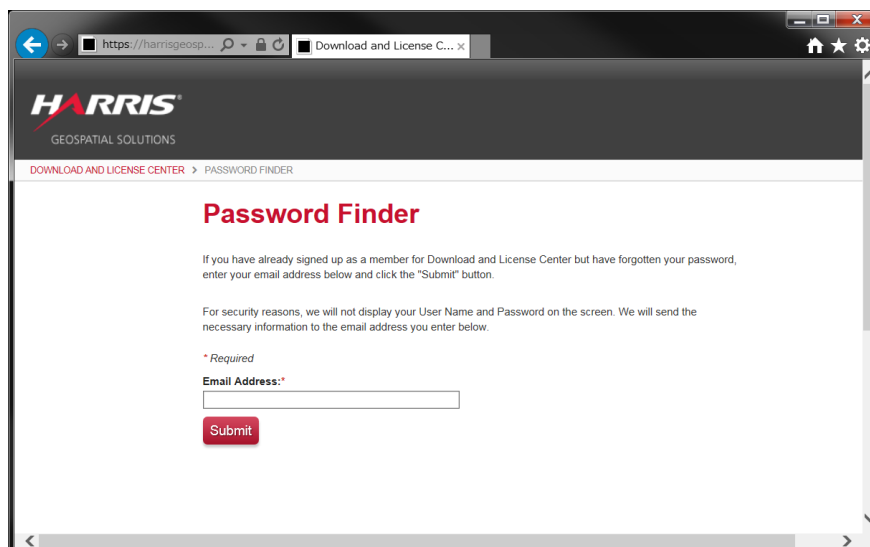


図 2 : Password Finder

3. Password Finder で Submit したメールアドレスに「Password Reset - Harris Download and License Center」という件名のメールが届きます。メール内のパスワードリセット用の URL からパスワードを設定してください。

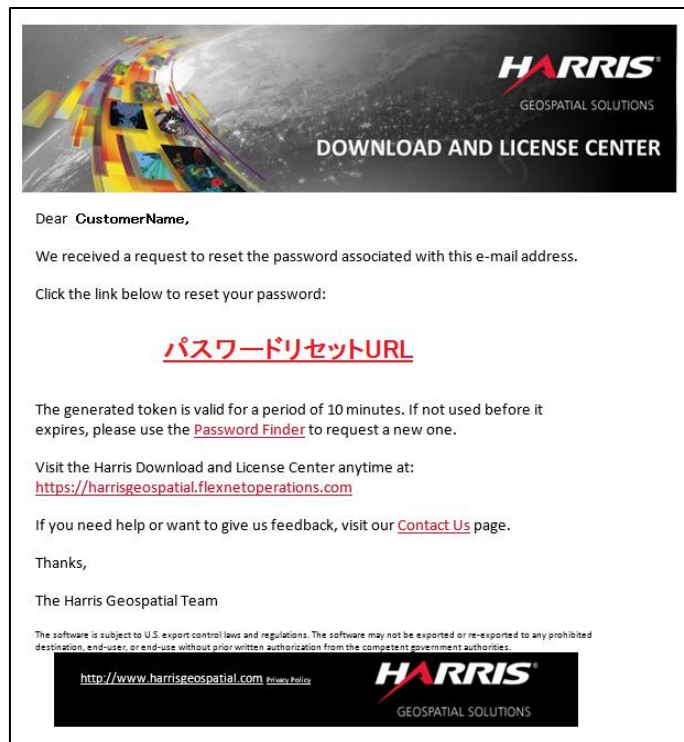


図 3 : Password Reset

4. パスワードの設定が完了すると、図 4 の画面に移りますので、「Attempt to login」をクリックして Harris Download and License Center にログインしてください。

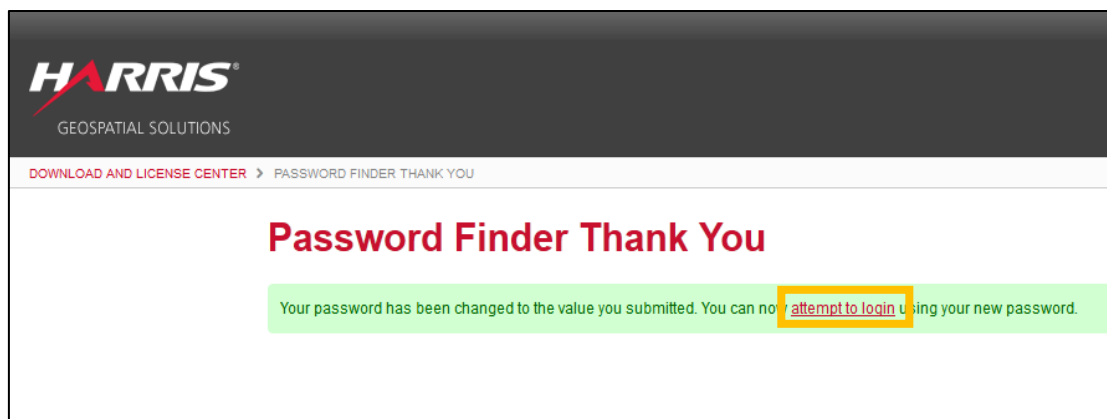


図 4 : パスワード設定完了画面

製品のダウンロード

ENVI/IDL は、Harris Download and License Center よりダウンロードしていただけます。ここでは Harris Download and License Center からの製品ダウンロードの手順を説明します。

1. 以下の URL より Harris Download and License Center にログインしてください。

【Harris Download and License Center URL】

<https://harrisgeospatial.flexnetoperations.com>

2. Downloads の Browse My Software and Documentation で Harris をクリックし、ENVI あるいは IDL をクリックしてください。

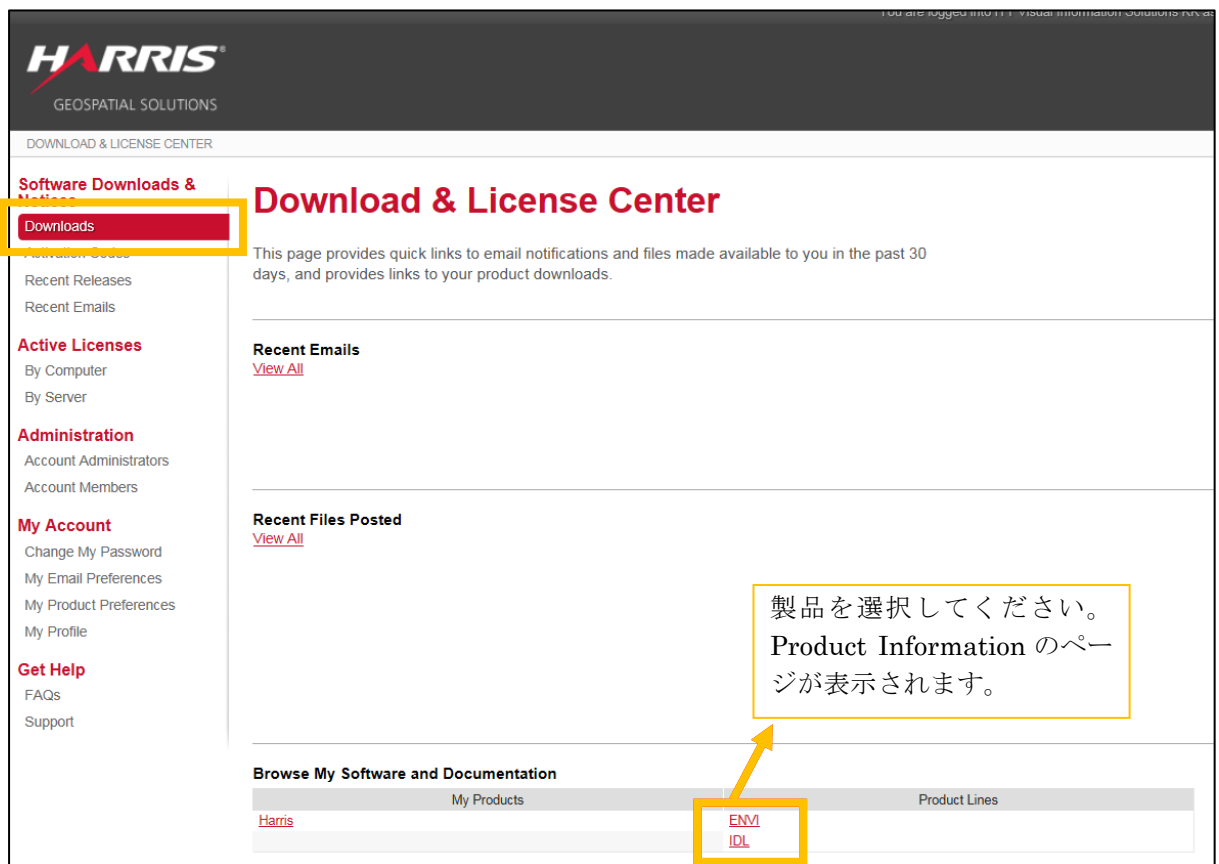


図 5 : Product Download

3. Product Information のページからダウンロードする製品とバージョンを確認しリンクをクリックしてください。Product Download のページが表示されます。

4. **Product Download** のページから製品のダウンロードを行います。インストールするマシンの OS に対応するインストーラをダウンロードしてください。☒マークをクリックするとダウンロードが開始されます。ライセンスサーバとして利用する場合は、**Flexnet License Server** も一緒にダウンロードしてください。

【ENVI】

Windows の場合 : ENVI x.x for Windows
 Linux の場合 : ENVI x.x for Linux
 Mac OS X の場合 : ENVI x.x for macOS

【IDL】

Windows の場合 : IDL x.x for Windows
 Linux の場合 : IDL x.x for Linux
 Mac OS X の場合 : IDL x.x for macOS

【Flexnet License Server】

Windows の場合 : License Server for Windows
 Linux の場合 : License Server for Linux

※x.x はバージョンを示します。

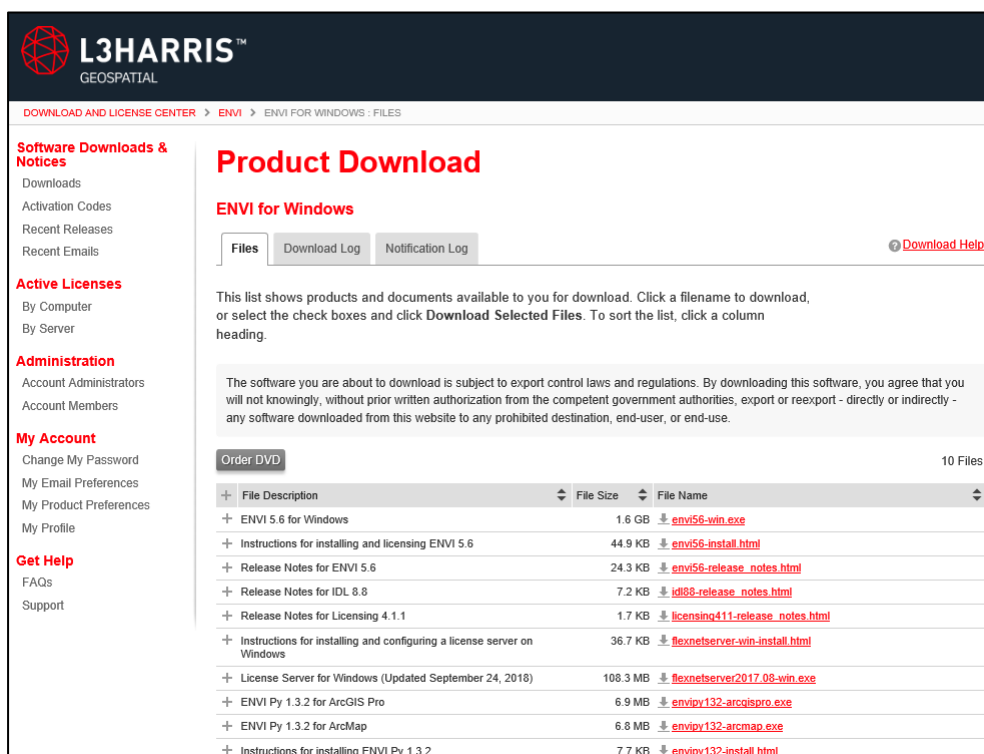


図 6 : Product Download

5. ダウンロードが完了しましたらインストールを行います。P11 「ソフトウェアのインストール方法」に進んでください。

ソフトウェアのインストール方法

この章では、ENVI5.6/IDL8.8 のインストール方法について説明します。

Windows へのインストール方法

以下の手順に従って Windows 版のソフトウェアをインストールしてください。また、インストールを行うには管理者権限または管理者グループのメンバーであることが必要です。この権限がないと、インストールプロセスはマシンのシステム構成を変更することができず、インストールに失敗します。ソフトウェアのインストール終了後、これらを起動する場合には管理者権限は必要ありません。

図は ENVI5.6 ですが、IDL8.8 の場合もインストール手順は同様です。

1. ダウンロードしたインストーラをダブルクリックします。
※インストール DVD の場合: DVD をコンピュータに挿入すると自動的に手順 2 に進みます。
2. ようこそ (Welcome) 画面が表示されますので、Next をクリックし次のダイアログに進んでください。

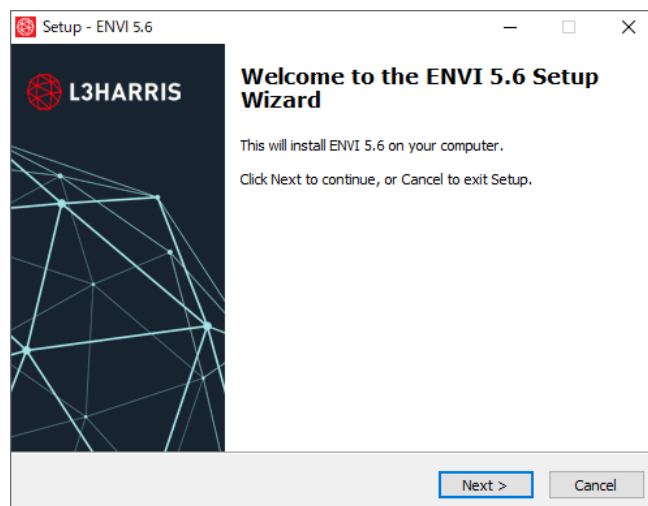


図 7 : Welcome

3. ライセンス同意書が表示されますので、同意する場合は「I accept the agreement」を選択し、Next をクリックします。

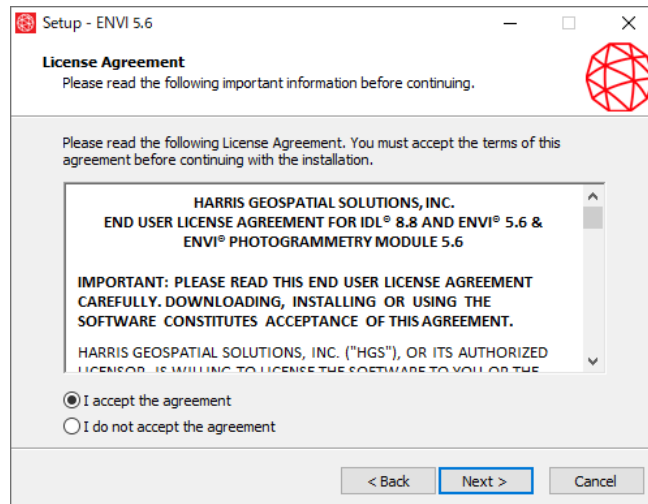


図 8 : License Agreement

4. インストール先フォルダを選択します。デフォルトでは `C:\Program Files\Harris` となっております。デフォルトのフォルダにインストールするにはそのまま **Next** をクリックしてください。別の場所にインストールする場合は、**Browse** をクリックしフォルダ選択ダイアログで別のフォルダを選択してください。特別な事情がない場合はデフォルトのインストール先をお勧めします。

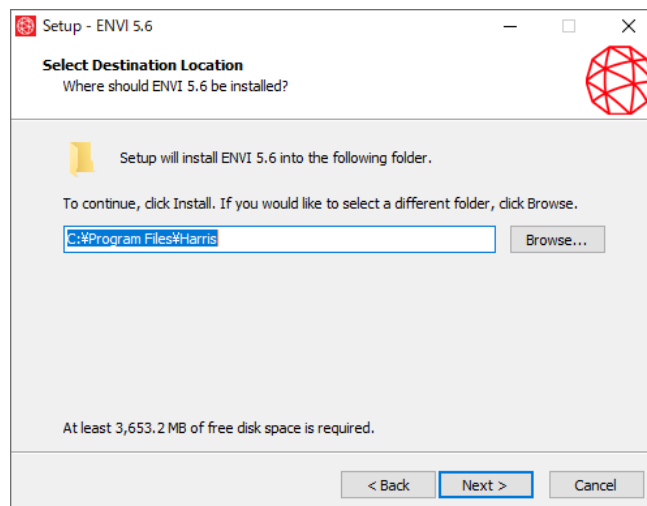


図 9 : Select Destination Location

5. インストールする製品構成を選択し、**Next** をクリックします。DataMiner は DB アクセス用の ODBC ドライバ (有償) です。

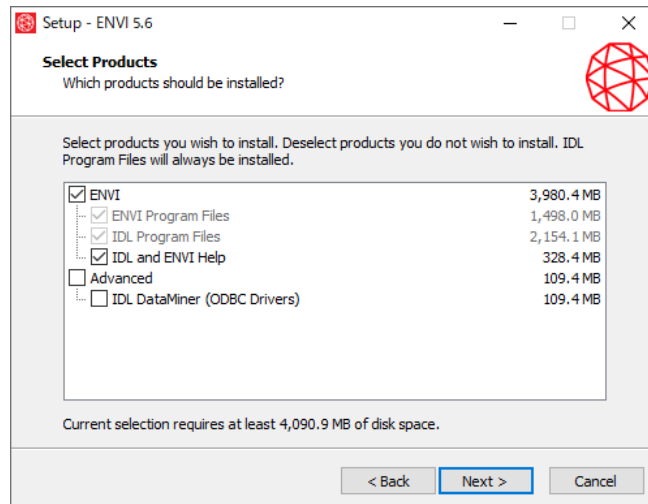


図 10 : Select Products

6. 確認画面が表示されます。内容をご確認の上、Install をクリックしてください。

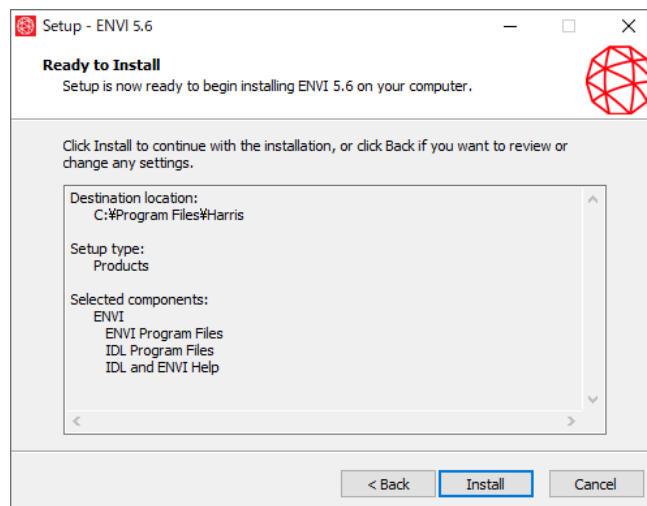


図 11 : Ready to Install

7. プログラムのインストールが開始されます。インストールを中止する場合は、Cancel をクリックしてください。
8. インストール完了画面が表示されます。

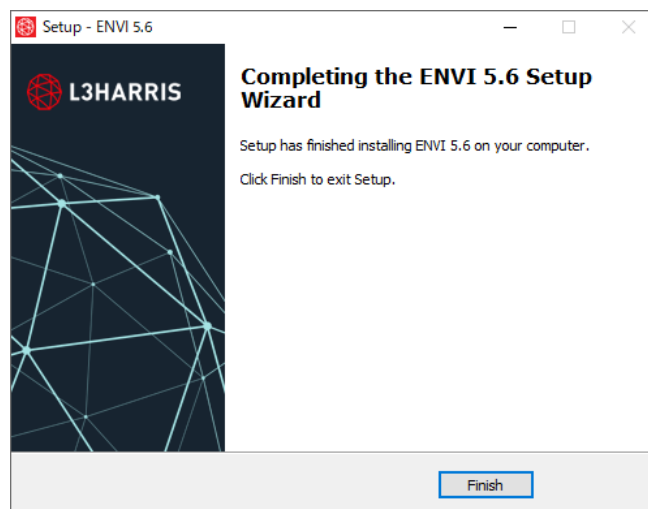
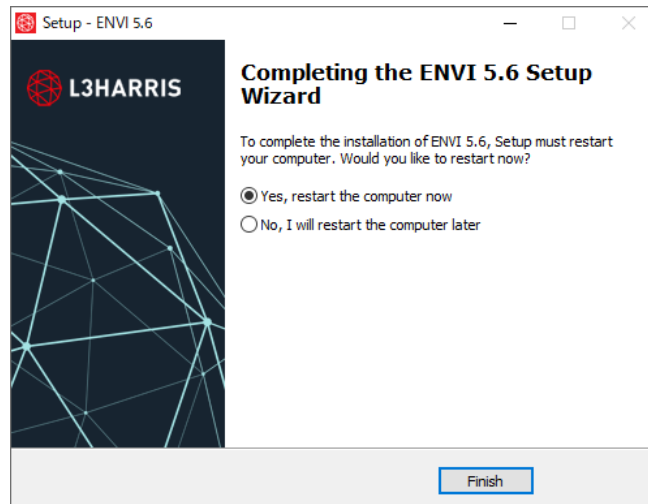


図 12 : Completing the ENVI5.6 Setup Wizard

9. 以上でプログラムのインストールは完了です。インストールが完了すると、下図のように **License Administrator** の起動の確認ダイアログが表示されます。マシン固定のライセンスを設定する方は、「はい」を選択してください。ライセンスサーバとしてライセンス認証する場合は **FlexNet License Server** のインストールが必要です。「いいえ」を選択してください。最後にインストール完了のメッセージが表示され、ソフトウェアのインストールが完了となります。P22「ソフトウェアのライセンス設定」に進んでください。

※ライセンス認証を行わないと製品を使用することはできません。

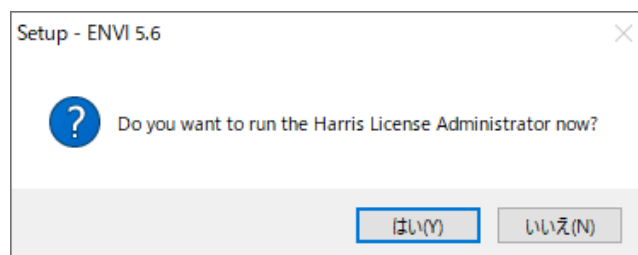


図 13 : start License Administrator

Linux へのインストール方法

以下の手順に従って Linux 版のソフトウェアをインストールしてください。Linux 版のソフトウェアをパブリックディレクトリにインストールする場合は、インストールスクリプトを実行する前に、ログインしているユーザがルートまたは同等のアクセス権限が必要です。Linux 版のソフトウェアのインストールは、ターミナル内にて行ないます（グラフィカルユーザインターフェースベースではありません）。

1. ダウンロードしたインストーラを解凍します。

```
# gunzip envixx-linux.tar.gz
# tar -xf envixx-linux.tar
```

※**xx**はバージョンを示します。

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、ディスクドライブにソフトウェアのインストールディスクを挿入してください。Linux の場合、オートマウントが不正な許可で実行されることがあります。インストールする際、アンマウントとマウントコマンドを以下のように入力するとインストールがスムーズに行えます。

[コマンド例: DVD ドライブが/dev/hdc の場合]

```
# umount /dev/hdc
# mount -o ro -t udf /dev/hdc /media
```

2. 解凍先のディレクトリ内の `install.sh` を実行してインストールを開始します。以下のコマンドを入力してください。

```
# ./install.sh
```

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、DVD 内の `install.sh` を実行してください。

```
# /bin/sh /DVD-PATH/install-unix.sh
```

(DVD-PATH は DVD ドライブのパスです。上記手順 1 の例では/media となります。)

3. ライセンス同意書が表示されますので、同意する場合は「y」を入力してください。

[入力例:ライセンス同意書に同意する場合(Linux の場合)]

```
Do you accept all of the terms of the preceding license agreement? (y/n): y
```

4. インストール場所を決定してください。何も入力しなかった場合は、ソフトウェアのデフォルトインストールディレクトリ (`/usr/local/harris`) にインストールされます。

[入力例 : `/usr/local/harris` を指定する場合(Linux の場合)]

```
-----  
ENVI 5.6 Installer  
-----  
Please enter the directory to install in  
  (e.g. "/usr/local/harris ")  
  
/usr/local/harris
```

5. 各ヘルプのインストールを行うかどうかを決定します。インストールする場合は「y」を、インストールしない場合は「n」を入力してください。

[入力例 : Help をインストールする場合(Linux の場合)]

```
IDL and ENVI Help files? (y/n): y
```

6. インストールするプロダクトやインストール先を再度確認し、問題なければ「y」を入力してください。

[入力例:Linux にインストールする場合]

```
-----  
Installation Summary:  
-----  
  
  ENVI 5.6  
  Installation location: /usr/local/harris  
  Login: root  
Products:  
  ENVI  
  IDL  
  IDL and ENVI Help files  
Platforms:  
  Linux - X86 (64-bit)  
  
Install the above configuration? (y/n):y
```

7. プログラムのインストールが開始されます。プログラムのインストールが終了すると、次に、ソフトウェアの起動に必要なシンボリックリンクの設定を行います。設定を行う場合は「y」を選択し

てください。設定を行わない場合は「n」を選択してください。

[入力例：設定を行う(Linux の場合)]

```
Do you want to create the symbolic links in /usr/local/bin? (y/n): y
```

8. **License Administrator** (GUI (グラフィカルユーザインターフェース) ベースのライセンス管理ツール) を起動するかどうかを決定します。**License Administrator** を使ってマシン固定のライセンスを設定する方は、「y」を選択してください。ライセンスサーバとしてライセンス認証する場合は **FlexNet License Server** のインストールが必要となりますので一旦「n」を選択してください。最後にインストール完了のメッセージが表示され、ソフトウェアのインストールが完了となります。**P22**「ソフトウェアのライセンス設定」に進んでください。

※ライセンス認証を行わないと製品を使用することはできません。

[入力例：License Administrator を起動する場合 (Linux の場合)]

```
Do you want to run the License Administrator? (y/n): y
```

※インストール時、シンボリックリンクを作成しなかった場合は、起動に必要なパス環境設定をする必要があります。環境設定セットアップファイル (**envi_setup** など) の設定に関しましては、ライセンスの設定が完了した後に、**P33**「ソフトウェアの起動方法 ->Linux の場合」に従って設定してください。

```
-----  
Installation Complete:  
-----  
  
The installation has successfully been completed.
```

Macintosh へのインストール方法

以下の手順に従って Macintosh 版のソフトウェアをインストールしてください。また、Macintosh 版のソフトウェアをパブリックディレクトリにインストールする場合は管理者権限が必要です。Macintosh 版のライセンス設定を行うには、ルートユーザを有効にしておく必要があります。

※Macintosh 版の License Administrator の起動・ENVI / IDL のグラフィック表示には、Apple X11 Xwindow マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz はバージョン 2.7.11 にて動作の確認を行っております。

1. ビルトインのルートユーザを使用し、ログインしてください。ルートユーザを有効にする方法やログイン方法の詳細は、P20「ルートユーザを有効にする方法」を参照してください。
2. ダウンロードしたインストーラをダブルクリックします。
3. ようこそ画面が表示されますので、「続ける」をクリックして次のダイアログに進んでください。

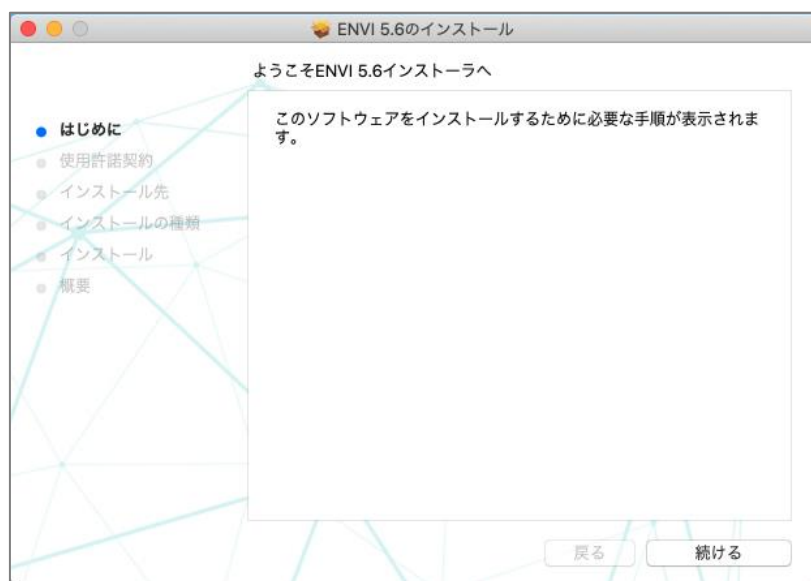


図 14：ようこそ

4. 使用許諾契約の画面が表示されますので、同意する場合は「続ける」をクリックします。別のダイアログが表示されますので、「同意する」をクリックしてください。

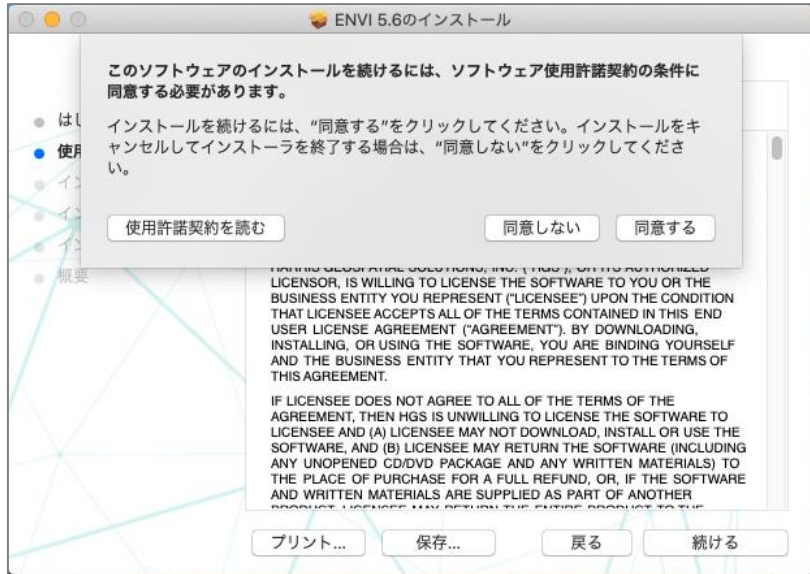


図 15 : 使用許諾契約

- 次のダイアログにおいて「インストール」をクリックし、インストールを開始してください。デフォルトの設定では、「/Applications/harris/」フォルダ内にプログラムがインストールされます。それ以外の場所にインストールを希望する場合は、「インストール先を変更」をクリックし、インストール先を変更してください。

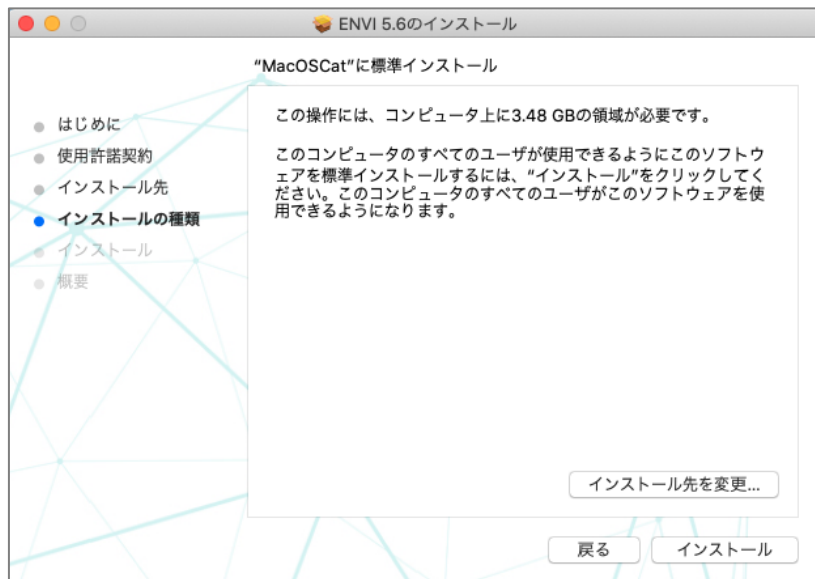


図 16 : インストールディレクトリ

- 以上でソフトウェアのインストールの完了です。「閉じる」をクリックしてウィザードを終了してください。自動的に Harris Administration Tool が起動しますので、P22「ソフトウェアのライセンス設定」に進みライセンスを設定してください。

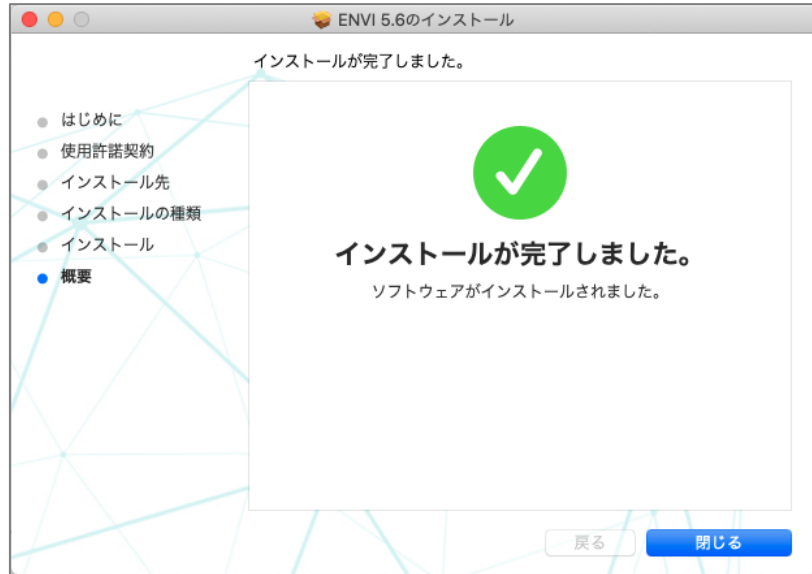


図 17：インストールの完了

ルートユーザを有効にする方法

この設定は、Apple 社の Mac OS X の設定となりますので更なる詳細情報やサポートに関しましてはメーカーに直接お問い合わせください。

Mac OS X version10.14、10.15 の設定

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択します。
2. 「表示」メニューから「ユーザとグループ」を選択します。
3. 鍵アイコンをクリックし、管理者アカウントで認証します。
4. 「ログインオプション」をクリックします。
5. 右下の「接続」ボタンをクリックします。
6. 「ディレクトリユーティリティを開く」をクリックします。
7. 「ディレクトリユーティリティ」ウィンドウの鍵アイコンをクリックします。
8. 管理者アカウント名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
9. 「編集」メニューから「ルートユーザを有効にする」を選択します。
10. 使用するルートパスワードをパスワードフィールドとその確認用フィールドに入力し、「OK」をクリックします。

参考: http://support.apple.com/kb/HT1528?viewlocale=ja_JP&locale=ja_JP

ログイン方法

再起動またはログアウト後、ログイン画面で「名前」に root、「パスワード」に設定していただいたパスワードを入力し、ログインしてください。



図 18：ログイン画面

※自動ログインを設定している場合は、root ユーザにてログインができないため、システム設定で自動ログインを解除する必要があります。自動ログインの解除方法は、以下の「自動ログインの設定を解除する」をご参照ください。

自動ログインの設定を解除する方法

コンピュータ起動後、ログインウィンドウが表示されず OS が起動する場合は、以下の手順で自動ログイン設定を解除してください。

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択します。
2. 「表示」メニューから「ユーザとグループ」を選択します。
3. 「ログインオプション」をクリックし、「自動ログイン」を「切」と設定します。
4. また、「ログイン時の表示」を「名前とパスワード」に変更します。

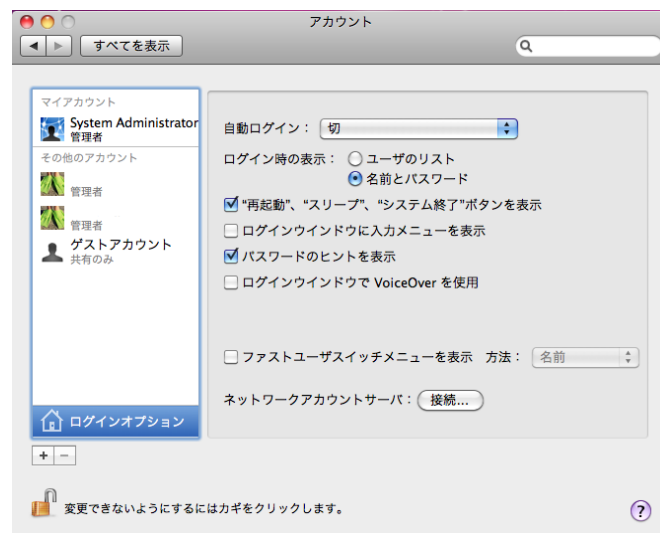


図 19：自動ログイン設定の解除

ソフトウェアのライセンス設定

この章では、ソフトウェアのライセンスの設定方法について説明します。ライセンス設定には、Windows の場合は管理者権限または管理者グループのメンバーであること、Linux / Macintosh の場合にはルートユーザの権限が必要です。権限がないユーザでは正常に設定できないため注意してください。また、ご利用のライセンス形態によりライセンスの設定方法が異なります。認証コードをご確認いただいた後、以下のように進んでください。

●マシン固定ライセンスの場合：

P24 「マシン固定ライセンスとして認証する」に進んでください。

●フローティングライセンスのライセンスサーバの場合：

P25 「ライセンスサーバとして認証する」に進んでください。

●フローティングライセンスのクライアントの場合：

P32 「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

認証コードを確認する

マシン固定のライセンス、またはライセンスサーバとしてライセンスを認証する場合には、認証コードが必要です。Harris Download and License Center からの「Maintenance ID: MNT-XXXXXXX - Harris Download and License Center」という件名のメールを確認してください。メール内の 16 桁の英数字が認証コードです。各製品、オプションモジュールごとに発行されます。

Username 様

このたびは弊社ソフトウェアおよびサービスをお選びいただきまして、誠にありがとうございます。

“Harris Download and License Center.”より、該当のソフトウェアをダウンロードしてください。

お客様の認証コードは以下のとおりです。

XXXX-XXXX-XXXX-XXXX

お客様の認証コードにおいて、以下のソフトウェアが提供されます：

ソフトウェア	認証コード	数量
ENVI+IDL License	XXXX-XXXX-XXXX-XXXX	2

お客様はいつでもご自身のライセンス情報を閲覧することができます。“Harris Download and License Center.”より“Search Entitlements”を選択し、お客様の MAINTENANCE ID: MNT-5503861 にて検索を行ってください。

もしご不明な点やご意見等ございましたら、こちら⇒“Contact us”までご連絡いただけますようお願いいたします。

今後とも弊社製品・サービスをよろしくお願いたします。

Exelis VIS株式会社

本ソフトウェアはアメリカ合衆国の輸出規制に関する法律および規則に準拠しております。当該製品を管轄政府機関の書面による事前承認なしに、輸出規制における法律および規則にて禁止されたいかなる輸出先、エンドユーザー、エンドユースへの輸出・再輸出は認められておりません。

<http://www.harrisgeospatial.com/privacy-policy>

HARRIS
GEOSPATIAL SOLUTIONS

図 20 : Maintenance ID: MNT-XXXXXXX - Harris Download and License Center

License Administrator とは

License Administrator とは、グラフィカルユーザインターフェース (GUI) ベースのライセンス管理ツールです。ライセンスの認証と無効化、ライセンスサーバの認証と無効化、クライアントとしてのライセンスサーバへの接続などを簡単におこなっていただけます。GUI の使用できないご環境の場合は、同様の操作をコマンドラインから行っていただけます。コマンドラインを使用したライセンス認証の手順は P45「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

License Administrator の起動方法

ここでは License Administrator の起動方法を記載します。

Windowsの場合：

スタート画面 > すべてのアプリ > ENVIx.x > Harris License Administrator

Linuxの場合：

ターミナルから以下のコマンドを入力してください。

```
# harrislicense
```

Macintoshの場合：

Finder -> アプリケーション -> harris -> LicenseAdministrator

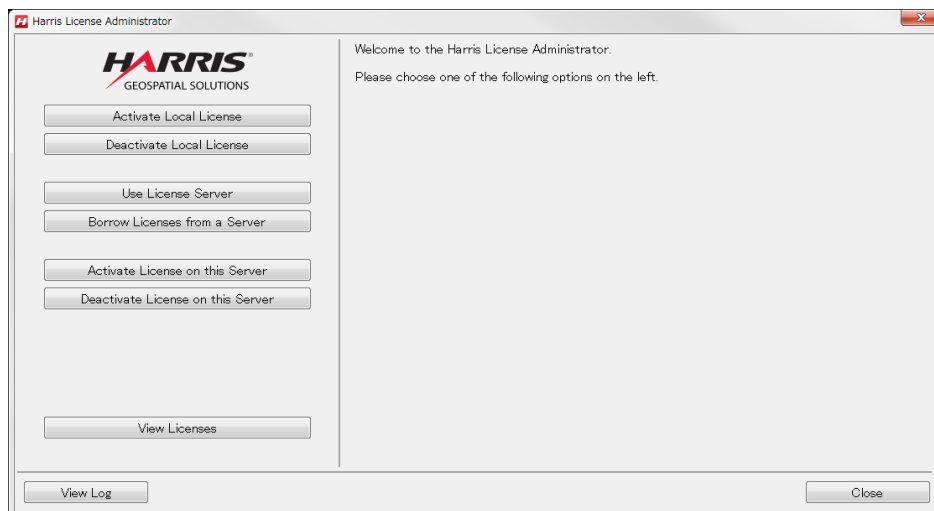


図 21 : License Administrator

マシン固定ライセンスとして認証する

ここではマシン固定のライセンスとしてライセンス認証する手順を説明します。この手順はコンピュータがインターネットに接続している必要があります。インターネットに接続していることを確認してから実施してください。ここではLicense Administratorを使用したライセンス認証の手順を説明します。コマンドラインからライセンス認証を行う場合はP45「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

1. P23「License Administratorの起動方法」を参照し、License Administratorを起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。
2. **Activate License**ボタンをクリックしてください。
3. 右側のテキストボックスに認証コードをXXXX-XXXX-XXXX-XXXXのように入力してください。（4桁ごとにハイフンを挿入し16桁の数をすべて半角で入力します。）同時に複数の認証コードを入力することができます。その場合は改行して入力してください。
4. **Quantity**に認証するライセンス数を入力します。
5. Proxyサーバを経由してインターネット接続をしている場合には、「Use a proxy server」にチェックを入れ、サーバ名 / ポート番号を入力します。
6. **Activate**ボタンをクリックしてください。

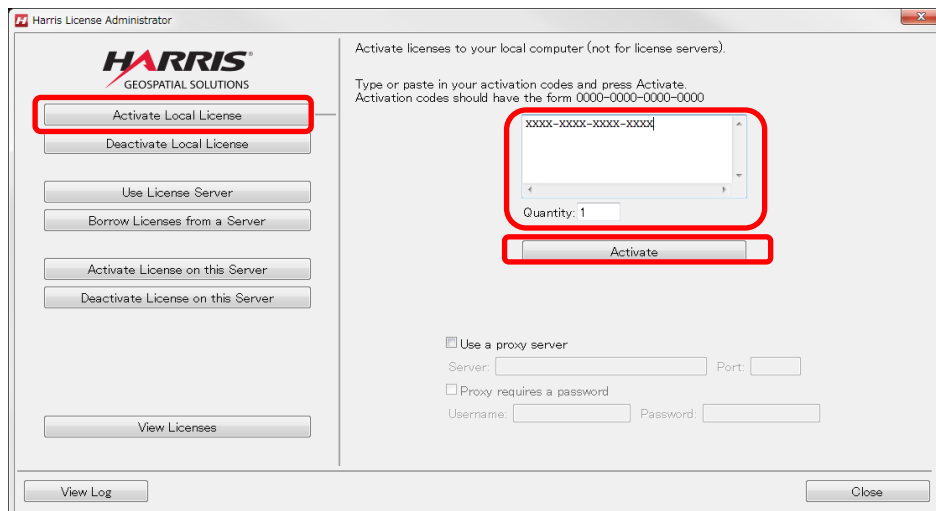


図 22 : Activate License

7. 以上で認証が完了です。License Administratorを閉じてください。P33「ソフトウェアの起動方法」を参照してENVI/IDLを起動してください。

ライセンスサーバとして認証する

ここでは、ライセンスサーバとしてライセンス認証する手順を説明します。正しくライセンスサーバを設定するために、次項「ライセンスサーバ認証の注意事項」をご一読ください。

ライセンスサーバ認証の注意事項

ライセンスサーバとしてライセンス認証する際の注意事項を説明します。ライセンス認証の問題を防ぐため、必ずご確認ください正しく設定してください。

Flexnet License Server のダウンロードとインストール

ライセンスサーバとして認証するには Flexnet License Server のインストールが必要です。インストーラは Harris Download and License Center からダウンロードできます。

MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。ライセンスサーバはライセンスサーバのサポート OS を P.2「Flexnet License Server サポートプラットフォーム」にてご確認の上インストールしてください。サポート対象外の OS では動作の保証をいたしかねますのでご了承ください。インストールとライセンス認証を行うには管理者権限または管理者グループのメンバーであることが必要です。(Linux の場合はログインしているユーザがルートまたは同等のアクセス権限を持つ必要があります。) この権限がないと、インストールやライセンス認証に失敗しますのでご注意ください。

ファイアウォールの設定

ライセンスサーバはデフォルトで TCP/IP ポート 7070 で通信するように構成されています。ライセンスサーバにファイアウォールが使用されている場合、TCP ポート 7070 のリスニングを許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。必要に応じて、システムまたはネットワーク管理者に相談して、ライセンスサーバマシンのファイアウォールを設定してください。

マシンのシステム時刻

ライセンスサーバマシン、クライアントマシン共に、システムの現在時刻を正しく設定してください。

Flexnet License Server をダウンロードする

P9「製品のダウンロード」を参照し、適合する OS の License Server をダウンロードしてください。

Flexnet License Server をインストールする

Flexnet License Server バージョン 2016.03 がインストールされている状態からバージョン 2017.08 へバージョンアップする場合は、事前に旧バージョンをアンインストールする必要があります。P.38「Flexnet License Server のアンインストール」を参照してアンインストールを実施してください。

Windows の場合

1. Flexnet License Server をインストールします。ダウンロードしたインストーラをダブルクリックしてください。インストーラが起動しますので、Next をクリックしてインストールを開始してください。

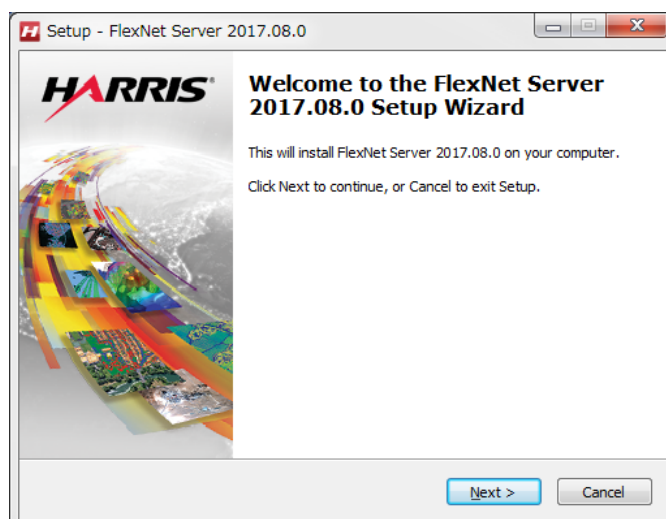


図 23 : Welcome

2. インストールディレクトリを設定します。デフォルトでは C:\Program Files\Harris となっています。デフォルトのフォルダにインストールするにはそのまま Next をクリックしてください。別の場所にインストールする場合は、Browse をクリックしフォルダ選択ダイアログで別のフォルダを選択してください。特別な事情がない場合はデフォルトのインストール先をお勧めします。

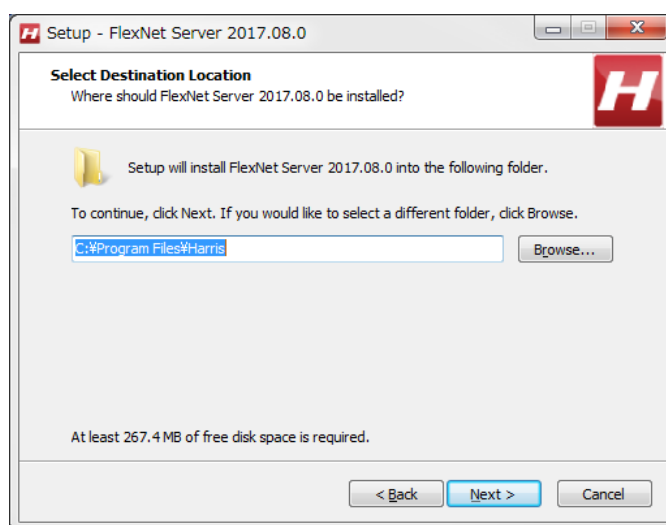


図 24 : Select Destination Location

3. Ready to Install で設定を確認して、問題なければ Install をクリックしてください。

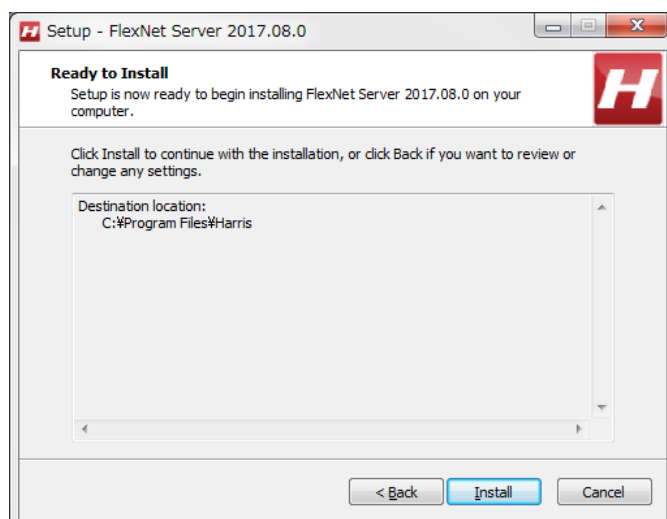


図 25 : Ready to Install

4. インストールが完了したら **Finish** をクリックしてください。

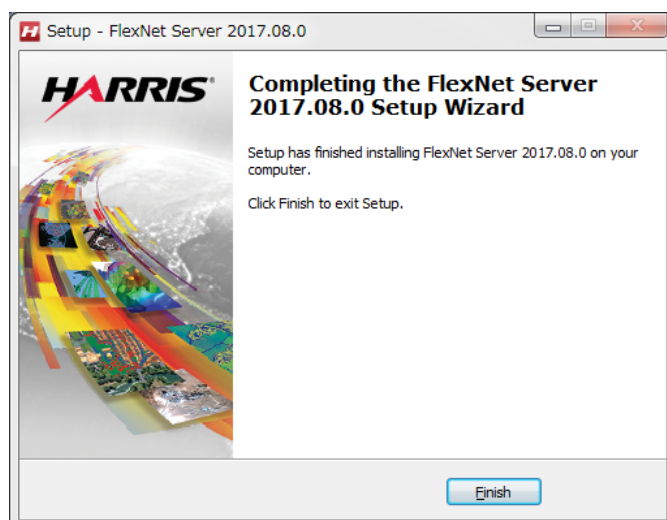


図 26 : Completing Setup Wizard

Linux の場合

以下の手順に従って Linux 版のソフトウェアをインストールしてください。Linux 版のソフトウェアのインストールは、ターミナル内にて行ないます（GUI ベースではありません）。

1. ダウンロードしたインストーラを解凍します。

```
# gunzip filename.tar.gz  
# tar -xf filename.tar
```

※*filename* はインストーラのファイル名を示します。インストーラは *envixx-linux.tar.gz*、*idlxx-linux.tar.gz*（*xx* はバージョンを示します。）のようなファイル名となります。

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、ディスクドライブにソフトウェアのインストールディスクを挿入してください。Linux の場合、オートマウントが不正な許可で実行される

ことがあります。インストールする際、アンマウントとマウントコマンドを以下のように入力するとインストールがスムーズに行えます。

[コマンド例: DVD ドライブが/dev/hdc の場合]

```
# umount /dev/hdc
# mount -o ro -t udf /dev/hdc /media
```

2. 解凍先のディレクトリ内の `install.sh` を実行してインストールを開始します。以下のコマンドを入力してください。

```
# ./install.sh
```

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、DVD 内の `install.sh` を実行してください。

```
# /bin/sh /DVD-PATH/install-linux.sh
```

(DVD-PATH は DVD ドライブのパスです。上記手順 1 の例では/media となります。)

3. インストール場所を決定してください。何も入力しなかった場合は、ソフトウェアのデフォルトインストールディレクトリ (`/usr/local/harris`) にインストールされます。

[入力例:/usr/local/harris を指定する場合(Linux の場合)]

```
Please enter the directory to install in. You need root or sudo privileges to
install the server.

(e.g. "/usr/local/harris ")

/usr/local/harris
```

4. このインストーラは `flexnetls` というグループとその下に `flexnetls` という `nologin` ユーザを作成します。また、`flexnetls-idl_lmgrd` というライセンスサーバサービスをインストールし、マシン起動時に自動的に `flexnetls` ユーザがサービスを開始するように構成します。以下のようなメッセージが確認できたらインストール完了です。


```
Unpacking flexnetls.tar.gz ...

You may now install the license server with ./flexnetls install

Creating group flexnetls
Creating user flexnetls
Service flexnetls-idl_lmgrd installed.
Starting flexnetls-idl_lmgrd (via systemctl):          [ OK ]
flexnetls is running

The installation has been completed.
```

5. 続けてライセンスを認証する場合は以下のように **y** を入力してください。ここでライセンスの認証を行った場合は、**P30**「ライセンス認証する」の手順は必要ありません。**n** を入力すると、ライセンス認証は行わずにインストールを完了します。あとでライセンスを認証する場合は **P30**「ライセンス認証する」の手順に従ってください。

```
Do you want to activate licenses on the server now? (y/n): y
```

6. お手持ちの認証コードとライセンス数を入力してください。

[入力例: 認証コード XXXX-XXXX-XXXX-XXXX、ライセンス数 1 の場合]

```
Please enter the Activation Code
XXXX-XXXX-XXXX-XXXX

How many licenses do you want to activate?
1
```

7. 認証コードを複数お持ちの場合は **y** を入力し、続けて認証してください。

```
Do you have another Activation Code? (y/n): y
```

8. すべてのライセンスを認証したら **n** を入力してください。以下のようなメッセージが表示され、ライセンスの認証は完了です。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとしての設定が必要です。**P32**「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

Do you have another Activation Code? (y/n): n

The activation has been completed.

ライセンス認証する

ライセンスサーバとしてライセンス認証する手順を説明します。ライセンス認証を行う際には、前項の「ライセンスサーバ認証の注意事項」を確認し、「Flexnet License Server をダウンロードする」、「Flexnet License Server をインストールする」を実施して、正しく認証してください。ここでは License Administrator を使用してライセンス認証する手順を説明します。コマンドラインからライセンス認証を行う場合は P45 「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

1. P23 「License Administratorの起動方法」を参照し、License Administratorを起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。
2. License Administrator の左側で **Activate Licenses on this Server** ボタンをクリックし、右側の画面からポート、認証コード、ライセンス数を入力します。Port はライセンス認証で使用する TCP ポートで、デフォルトは 7070 です。任意のポートに変更していただけます。テキストボックスに認証コードを XXXX-XXXX-XXXX-XXXX のように入力してください。(4 桁ごとにハイフンを挿入し 16 桁の数をすべて半角で入力します。) 同時に複数の認証コードを入力することができます。その場合は改行して入力してください。
3. Quantity に認証するライセンス数を入力してください。

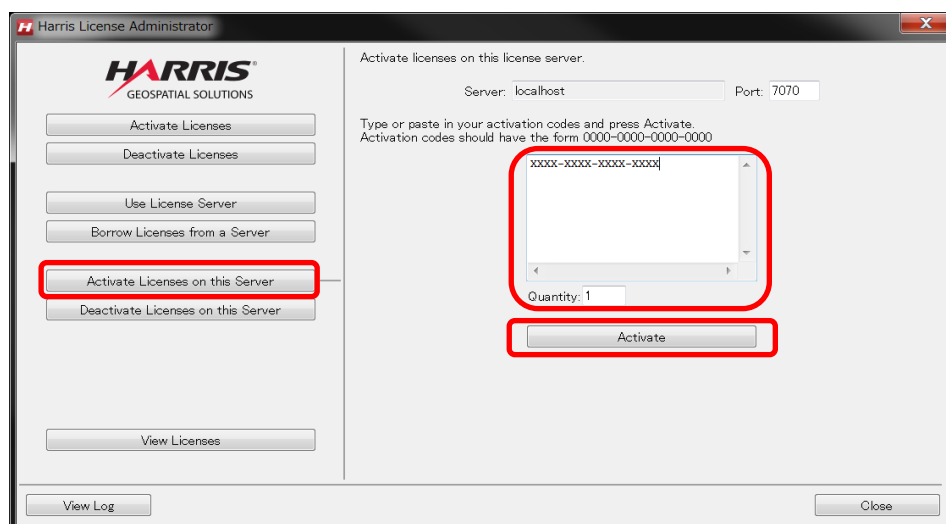


図 27 : Activate Licenses on this Server

4. Activate ボタンをクリックしてください。

5. 以上でライセンスの認証の完了です。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとしての設定が必要です。P32「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

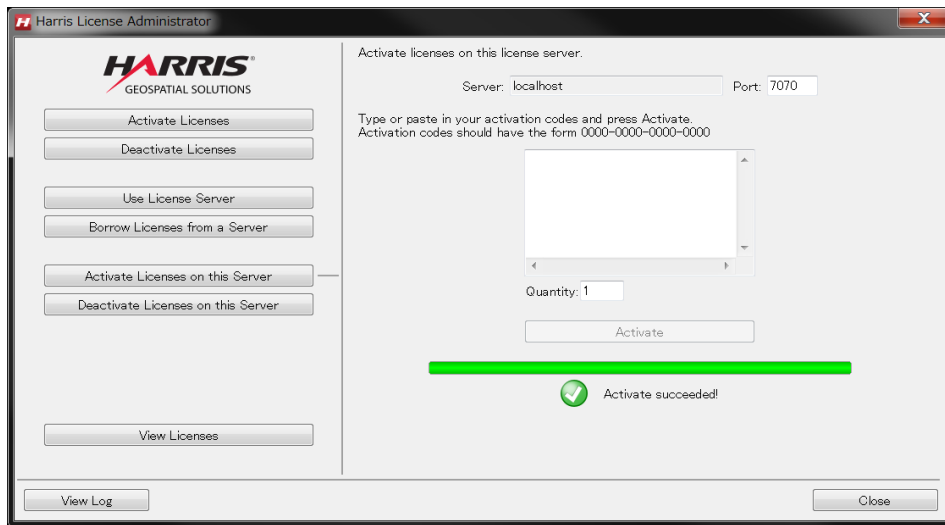


図 28 : Activate succeeded

クライアントとしてライセンス認証する

ライセンスサーバのクライアントの設定について説明します。クライアントとしてライセンス認証を行うには、**License Administrator**を使用してライセンスサーバに接続します。（**License Administrator**を使用しない場合の接続方法はP45「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。）ライセンス認証を正常に行うためには、ライセンスサーバが正しく起動している必要があります。

1. P23「**License Administrator**の起動方法」を参照し、**License Administrator**を起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。
2. 左側の**Use License Server**ボタンをクリックしてください。
3. **Server**にライセンスサーバマシンのコンピュータ名かIPアドレスを入力し、**Port**にポート番号を入力してください。

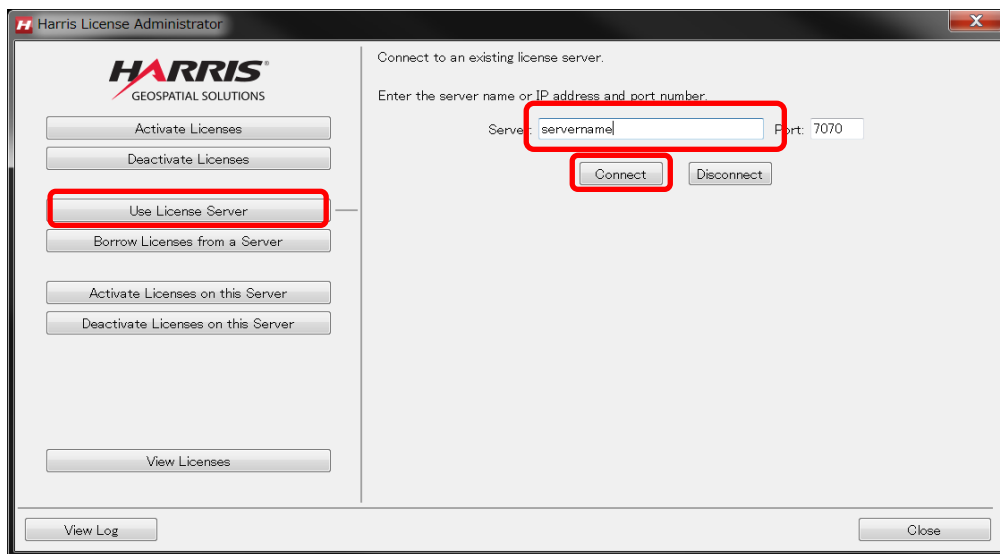


図 29 : Connect to an existing license server

4. **Connect**ボタンをクリックするとライセンスサーバへの接続が完了します。P33「ソフトウェアの起動方法」に進みENVI/IDLを起動してください。

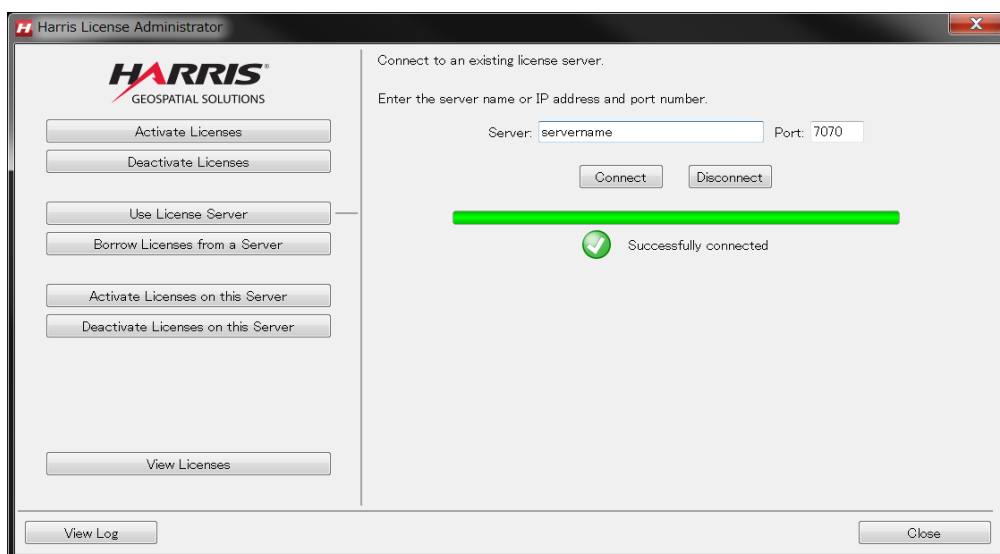


図 30 : Successfully connected

ソフトウェアの起動方法

この章では、ソフトウェアの起動方法について説明します。ソフトウェアは起動時にライセンスを確認し起動します。

Windows の場合

ENVI の起動方法

Windows で ENVI を起動するには、スタートメニュー-> すべてのアプリ-> ENVI x.x -> ENVI(64-bit) を選択します。

注: 64bit 版の ENVI をインストールしている場合、Windows のスタートメニューから 32bit 版または 64bit 版の ENVI のいずれかを選択できます。上記のメニューは、64bit プラットフォームでは 64bit の ENVI を起動します。32bit の ENVI を起動するには、スタートメニュー-> すべてのアプリ-> ENVI x.x -> ENVI(32-bit)を選択します。x.x は ENVI のバージョンを示します。

IDL の起動方法

Windows で IDL を起動するには、スタートメニュー-> すべてのアプリ-> IDL x.x-> IDLx.x を選択します。

※ENVI をインストールした場合はスタートメニュー -> すべてのアプリ -> ENVI x.x -> IDL x.x

注: 64bit 版の IDL をインストールしている場合、Windows のスタートメニューから 32bit 版または 64bit 版の IDL のいずれかを選択できます。上記のメニューは、64bit プラットフォームでは 64bit の IDL を起動します。32bit の IDL を起動するには、スタートメニュー-> すべてのアプリ-> IDL x.x-> 32-bit-> IDL (32-bit) を選択します。x.x は IDL のバージョンを示します。

Linux の場合

Linux で ENVI / IDL を起動するには、環境の設定を行った後にコマンドを使用して起動します。

環境の設定

Linux 版の ENVI5.6 / IDL8.8 のインストールの際、シンボリックリンクの作成を選択すると、/usr/local/bin ディレクトリに複数の起動コマンドのシンボリックリンクを作成します。ENVI5.6 では、.bashrc などに環境変数やエイリアスを設定しなくても、envi 起動コマンドを実行することができます。また、envi56 などとバージョンを明記したコマンドで、複数バージョンの ENVI がインストールされている場合も明示的にバージョンを選択して起動することができます。

シンボリックリンクを作成しなかった場合、マシンのパス環境の設定を行う必要があります。ENVI / IDL では以下のスクリプトが提供されますので手順に従い環境の設定をしてください。

ENVI :	envi_setup、envi_setup.ksh、envi_setup.bash
IDL :	idl_setup、idl_setup.ksh、idl_setup.bash

これらのスクリプトは、ENVI / IDL に必要な環境変数とエイリアス等を設定します。ENVI / IDL にアクセスする各ユーザのログインスクリプト (.cshrc、.profile、または.bashrc) を変更してください。

ユーザがログインするたびにこれらの設定が自動的に実行されます。`.cshrc`、`.profile`、または`.bashrc` ファイルを変更するには、以下の手順を実行します。

1. テキストエディタを使用して`.cshrc`、`.profile`、または`.bashrc` ファイルを修正してください。
2. C シェルユーザの場合は、`.cshrc` ファイルに以下の行を追加してください。

```
source <INSTALL_DIR>/envixx/bin/envi_setup
source <INSTALL_DIR>/idlxx/bin/idl_setup
```

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ（デフォルトでは`/usr/local/harris`）を示し、`xx` はソフトウェアバージョンを示します。

3. Korn シェルユーザの場合は、`.profile` ファイルに以下の行を追加してください。

```
. <INSTALL_DIR>/envixx/bin/envi_setup.ksh
. <INSTALL_DIR>/idlxx/bin/idl_setup.ksh
```

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ（デフォルトでは`/usr/local/harris`）を示し、`xx` はソフトウェアバージョンを示します。

4. Bash シェルユーザの場合は、`.bashrc` ファイルに以下の行を追加してください。

```
. <INSTALL_DIR>/envixx/bin/envi_setup.bash
. <INSTALL_DIR>/idlxx/bin/idl_setup.bash
```

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ（デフォルトでは`/usr/local/harris`）を示し、`xx` はソフトウェアバージョンを示します。

5. `.cshrc`、`.profile`、または`.bashrc` ファイルを実行するには一旦ログアウトしてもう一度ログインするか、以下のコマンドのいずれかを使用してホームディレクトリからファイルを実行してください。

```
C シェル用:      source .cshrc
Korn シェル用:  . .profile
Bash シェル用:  . .bashrc
```

ENVI 起動コマンド

Linux 版の ENVI は、以下のコマンドを実行して起動することができます。

ディレクトリ: <INSTALL_DIR>/envixx/bin

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ (デフォルトでは/usr/local/harris) を示し、xx はソフトウェアバージョンを示します。

コマンド名	説明
envi	ENVI を起動します。ENVI+IDL ライセンスをご利用の場合は ENVI+IDL を起動します。
envi56	複数バージョンの ENVI がインストールされている際、意図的に ENVI5.6 を選択して起動します。
envi -classic	ENVI Classic を起動します。ENVI+IDL をご利用の場合は ENVI Classic+IDL を起動します。
envi_rt	ENVI のみを起動します。
envi_rt56	複数バージョンの ENVI がインストールされている際、意図的に ENVI5.6 を選択して起動します。
envi_rt -classic	ENVI Classic を起動します。
envihelp	ヘルプを起動します。

IDL 起動コマンド

Linux / UNIX 版の IDL は、以下のコマンドのいずれか 1 つを実行して起動することができます。

コマンド名	説明
idl	コマンドラインのみの IDL を起動します。
idl88	複数バージョンの IDL がインストールされている際、意図的に IDL8.8 を選択して起動します。
idlde	IDL ワークベンチを起動します。
idlde88	複数バージョンの IDL がインストールされている際、意図的に IDL8.8 を選択して起動します。
idl -vm	IDL Virtual Machine を起動します。
idl -rt	IDL のランタイムバージョンを起動します。
idlhelp	ヘルプを起動します。
harrislicense	License Administrator を起動します。

※ENVI5.1 / IDL8.3 から Linux / UNIX 版は 64bit 版のみ対応しています。

Macintosh の場合

Macintosh では、Applescript もしくはターミナルから ENVI / IDL を起動することができます。

Applescript からの実行

Applescript から ENVI / IDL を実行するには、インストールディレクトリ内の envixx (idlxx)ディレクトリ（デフォルトでは/Applications/harris/envixx あるいは /Applications/harris/idlxx）から Applescript アプリケーションをダブルクリックして起動します。

アイコン名	説明
ENVI	64bit 版の ENVI を起動します。
ENVI+IDL	64bit 版の ENVI と IDL を起動します。
ENVIHelp	ENVI のヘルプを起動します。
LicenseAdministrator	License Administrator を起動します。

アイコン名	説明
IDL	64bit 版の IDL ワークベンチを起動します。
IDLCommandLine	コマンドラインのみの IDL を起動します。
IDLHelp	IDL のヘルプを起動します。
IDLVirtualMachine	IDL Virtual Machine を起動します。
LicenseAdministrator	License Administrator を起動します。

ターミナルからの実行

Mac OS X のターミナルから ENVI / IDL を実行する方法について説明します。

1. Applications/Utilities フォルダからターミナルを起動してください。
2. ENVI / IDL を実行する前に、起動するマシンの各環境をセットアップする必要があります。環境設定に関しては、P33 の「Linux 版 ENVI / IDL の起動方法 環境の設定」を参照してください。
3. コマンドラインから以下のコマンドを実行して ENVI を起動することができます。

コマンド名	説明
envi	ENVI を起動します。ENVI+IDL をご利用の場合は ENVI+IDL を起動します。
envi -classic	ENVI Classic を起動します。ENVI+IDL をご利用の場合は ENVI Classic+IDL を起動します。
envi_rt	ENVI を起動します。
envi_rt -classic	ENVI Classic を起動します。
envihelp	ヘルプを起動します。

コマンド名	説明
idl	コマンドラインのみの IDL を起動します。
idlde	IDL ワークベンチを起動します。
idl -vm	IDL Virtual Machine を起動します。
idl -rt	IDL のランタイムバージョンを起動します。
idlhhelp	ヘルプを起動します。
harrislicense	License Administrator を起動します。

※ENVI5.1 / IDL8.3 から MacOS は 64bit 版のみ対応しています。

ライセンスサーバの管理（ライセンス管理者用）

ここでは ENVI/IDL のフローティングライセンスのライセンスサーバの管理について説明します。ライセンスサーバ管理ソフトウェアである Flexnet License Server のインストールとアンインストールの手順や、ファイアウォールの設定、ライセンスサーバサービスの管理などについての手順を記載します。ここでの説明はシステム管理者様向けとなっています。

Flexnet License Server のインストール

ENVI/IDL のライセンスサーバを構築するには、Flexnet License Server をインストールする必要があります。インストールの注意事項と手順については P25 「Flexnet License Server のダウンロードとインストール」を参照してください。Flexnet License Server のバージョン 2016.03 をお使いいただいております。バージョン 2017.08 にバージョンアップする場合は、事前にバージョン 2016.03 をアンインストールする必要がありますので下記手順でアンインストールを実施してください。

Flexnet License Server のアンインストール

ここではFlexnet License Serverのアンインストールの手順を説明します。

Windows の場合

1. ライセンス認証している認証コードがあった場合、P43 「ライセンスを無効化する」を参照してすべてのライセンスを無効化してください。
2. スタートメニュー -> コントロールパネル -> プログラムと機能 -> FlexNet Server xxxx.xx.x を選択して、アンインストールボタンをクリックしてください。
3. アンインストールの確認ダイアログで「はい」をクリックするとアンインストールが開始します。
4. アンインストール完了のダイアログで「OK」をクリックしてください。アンインストールが完了します。

Linux の場合

1. ターミナルを開いて、カレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは/usr/local/harrisです。

※xxxx.xx.x はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。（quantity を 0 に入力して activate を実行します。）

```
./flexnetlsadmin.sh -server http://localhost:7070 -activate -id xxxx-xxxx-xxxx-xxxx -count 0
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX で TCP ポートが 7070 の場合】

```
# ./flexnetlsadmin.sh -server http://localhost:7070 -activate -id  
xxxx-xxxx-xxxx-xxxx -count 0
```

3. 以下のコマンドでライセンスサーバサービスを停止します。

```
# /sbin/service flexnetls-idl_lmgrd stop
```

4. 以下のコマンドでライセンスサーバサービスをアンインストールします。

```
# cd /usr/local/harris/flexnetls_XXXX.XX.X/server  
# ./flexnetls uninstall
```

5. 以下のコマンドでいくつかのディレクトリとファイルを削除します。**FlexnetServer** のログを残したい場合は、`/var/opt/flexnetls/idl_lmgrd/logs` 配下をバックアップしておいてください。

```
# rm -R /opt/flexnetls/idl_lmgrd  
# rm /etc/default/flexnetls-idl_lmgrd  
# rm -R /var/opt/flexnetls/idl_lmgrd
```

6. 以上でアンインストールの完了です。

ライセンスの認証

ライセンスの認証につきましては、P22「ソフトウェアのライセンス設定」の手順を参照してください。コマンドラインからの認証につきましては Appendix、の「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

有効なライセンスフィーチャーを確認する

ここでは、ライセンスフィーチャーの詳細を確認するための手順を説明します。

Windows の場合

License Administrator から確認する

1. 以下のメニューより **License Administrator** を起動します。

スタートメニュー -> すべてのアプリ -> ENVIX.x -> Tools > Harris License Administrator

※IDLをインストールした場合はすべてのアプリ -> IDLX.x -> Toolsから起動してください。

※x.xはバージョンを示します。

2. 画面左側の View Licenses ボタンをクリックしてください。画面右側でライセンス認証している認証コードと Maintenance ID の一覧を確認できます。
3. 画面右側の View current license and activation codes のリストから任意のライセンスを選択してください。Show feature details ボタンをクリックすると、総ライセンス数と有効期限、使用中のライセンス数を確認できます。

コマンドラインから確認する

コマンドプロンプトを開いて、カレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>%flexnetls-x64_windows-xxxx.xx.x%enterprise
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:%Program Files%Harris です。

※xxxx.xx.x はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:%Program Files%Harris%flexnetls-x64_windows-xxxx.xx.x%enterprise"
```

サービスとポートを確認する

実行中のサービスとリスニングポートを確認するには以下のコマンドを入力します。

```
# flexnetlsadmin.bat -server http://localhost:7070 -status
```

ライセンスフィーチャーを表示する

ローカルコンピュータ（現在コマンド入力しているコンピュータ）上のライセンスフィーチャーのリストを表示します。

```
# flexnetlsadmin.bat -server http://localhost:7070 -features
```

特定のライセンスサーバのライセンスフィーチャーを表示する

特定のライセンスサーバマシンのライセンスフィーチャーのリストを表示します。

【ライセンスサーバ myserver.mycompany.com、TCP ポート 7070 のフィーチャーを表示するコマンド例】

```
# flexnetlsadmin.bat -server http://myserver.mycompany.com:7070 -licenses
```

【ライセンスサーバの指定に IP アドレスを使用し、また-verbose オプションにてより多くの情報を

表示するときのコマンド例】

```
# flexnetlsadmin.bat -server http://123.456.789.10:7070 -licenses -verbose
```

Linux の場合

ターミナルを開いて、カレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは /usr/local/harris です。

※xxxx.xx.x はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

サービスとポートを確認する

実行中のサービスとリスニングポートを確認するには以下のコマンドを入力します。

```
# ./flexnetlsadmin.sh -server http://localhost:7070 -status
```

ライセンスフィーチャーを表示する

ローカルコンピュータ（現在コマンド入力しているコンピュータ）上のライセンスフィーチャーのリストを表示します。

```
# ./flexnetlsadmin.sh -server http://localhost:7070 -features
```

特定のライセンスサーバのライセンスフィーチャーを表示する

特定のライセンスサーバマシンのライセンスフィーチャーのリストを表示します。

【ライセンスサーバ myserver.mycompany.com、TCP ポート 7070 のフィーチャーを表示するコマンド例】

```
# ./flexnetlsadmin.sh -server http://myserver.mycompany.com:7070 -licenses
```

【ライセンスサーバの指定に IP アドレスを使用し、また-verbose オプションにてより多くの情報を表示するときのコマンド例】

```
# ./flexnetlsadmin.sh -server http://123.456.789.10:7070 -licenses -verbores
```

ライセンスサーバサービスの管理

ここではライセンスサーバサービスの開始、停止、ステータス確認、ログファイルの確認などの手順を説明します。

Windows の場合

コントロールパネル -> 管理ツール -> サービスを開いてください。

サービスを開始する

FlexNet License Server – idl_lmgrd を選択し、右クリックのショートカットメニューから開始をクリックしてください。サービスが開始します。

サービスを停止する

FlexNet License Server – idl_lmgrd を選択し、右クリックのショートカットメニューから停止をクリックしてください。サービスが停止します。

ログファイルの場所

以下のディレクトリにログファイルが格納されます。

C:\¥Windows¥ServiceProfiles¥NetworkService¥flexnetls¥idl_lmgrd¥logs

Linux の場合

ターミナルからコマンドを入力しサービスを管理します。

サービスを開始する

```
# /sbin/service flexnetls-idl_lmgrd start
```

サービスを停止する

```
# /sbin/service flexnetls-idl_lmgrd stop
```

サービスのステータスを確認する

```
# /sbin/service flexnetls-idl_lmgrd status
```

ログファイルの場所

以下のディレクトリにログファイルが格納されます。

`/var/opt/flexnetls/idl_lmgrd/logs/`

ライセンスを無効化する

ライセンスを認証しているマシンを変更したり、ライセンス形態を変更する場合はライセンスを無効化する作業が必要になります。ここでは、ライセンスの無効化の手順について説明します。

マシン固定ライセンスの場合

License Administrator から変更する

1. P23「License Administrator の起動方法」を参照して License Administrator を起動してください。
2. 左側の Deactivate Licenses をクリックします。
3. 無効化する認証コードを選択します。(複数選択可)
4. Deactivate ボタンをクリックするとライセンスが無効化されます。

ライセンスサーバの場合

License Administrator から変更する

1. P23「License Administrator の起動方法」を参照して License Administrator を起動してください。
2. 左側の Deactivate Licenses on this Server をクリックします。
3. 右側の Server と Port を確認してください。
4. 無効化する認証コードを選択します。(複数選択可)
5. Deactivate ボタンをクリックするとライセンスが無効化されます。

Appendix

ここでは、ENVI / IDL のアンインストール手順やコマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを使用する方法、マシンの変更の手順、ライセンスの借用（Borrow License）の使い方などを説明します。

ENVI / IDL のアンインストール手順

ENVI / IDL を完全にアンインストールする手順を説明します。操作には、管理者権限が必要です。

Windows の場合

1. マシン上で使用可能なローカルライセンスを無効にします。ライセンスの無効化については P43 「ライセンスを無効化する」を参照してください。
2. ご利用のマシンで Flexnet License Server をご利用いただいている場合は、P.38「Flexnet License Server のアンインストール」を参照し、Flexnet License Server のアンインストールを実施してください。
3. 専用の Windows ツール（コントロールパネルから起動できる「ソフトウェアのアンインストール」など）を使用して ENVI / IDL をアンインストールします。
4. SARscape、ENVI Crop Sciences、ENVI Photogrammetry などの追加製品がインストールされている場合は、専用の Windows ツールを使用して、それぞれをアンインストールします。
5. インストールフォルダ（デフォルトのインストール先は C:\Program Files\Harris）を手動で削除します。
6. 以下のフォルダを手動で削除します
 - (ア) ユーザのホームディレクトリにある .idl フォルダ
 - (イ) IDLWorkspace フォルダ内にある .metadata フォルダ（存在する場合）
 - ※ IDLWorkspace はデフォルトでホームディレクトリに保存されます。
 - (ウ) C:\ProgramData フォルダ内にある Harris フォルダ（存在する場合）

Linux と Macintosh の場合

1. マシン上で使用可能なローカルライセンスを無効にします。ライセンスの無効化については P43 「ライセンスを無効化する」を参照してください。
2. ご利用のマシンで Flexnet License Server をご利用いただいている場合は、P.38「Flexnet License Server のアンインストール」を参照し、Flexnet License Server のアンインストールを実施してください。Macintosh の場合、この操作は必要ありません。
3. インストールディレクトリ（Linux では /usr/local が、Macintosh では /Applications がデフォルトのインストール先）から harris フォルダを削除し、ENVI / IDL をアンインストールします。
4. SARscape、ENVI Crop Sciences、ENVI Photogrammetry などの追加製品がインストールされている場合は、対応するインストールディレクトリを削除してそれぞれをアンインストールします。
5. 以下のフォルダを手動で削除するか、アーカイブディレクトリに移動します。
 - (ア) ユーザのホームディレクトリにある .idl フォルダ
 - (イ) IDLWorkspace フォルダ内にある .metadata フォルダ（存在する場合）
 - ※ IDLWorkspace はデフォルトでホームディレクトリに保存されます。
 - (ウ) /tmp/harris フォルダ（存在する場合）

- インストール時にシンボリックリンクを設定している場合は、`/usr/local/bin` に次のシンボリックリンクが作成されています。これらを削除してください。
`idl`, `harrislicense`, `harrislicense88`, `idl88`, `idlde`, `idlde88`, `idltaskengine`, `idltaskengine88`, `envi`, `envi56`, `idlhelp`, `idlhelp88`
- ログインスクリプト (`.cshrc`、`.profile`、または`.bashrc`) で `harris` フォルダ配下にある `setup` ファイルを読み込む設定を行っている場合は、その設定を外してください。

コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する マシン固定ライセンスとして認証する

Windows の場合

- コマンドプロンプトを起動して、カレントディレクトリを `ENVI/IDL` インストールディレクトリのアクティベーションユーティリティのディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>%ENVI%xx%IDL%xx%license_utils%bin.x86_64
```

※`<INSTALL_DIR>`はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは `C:%Program Files%Harris` です。

※`xx` はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:%Program Files%Harris%ENVI56%IDL88%license_utils%bin.x86_64"
```

- 以下のコマンドを入力しライセンス認証します。

```
activate.exe -a activation-code [-q quantity]
```

【入力例：認証コードが `XXXX-XXXX-XXXX-XXXX` でライセンス数 1 の場合】

```
# activate.exe -a XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -q 1
```

ライセンス認証が完了したら `ENVI/IDL` を起動します。P33「ソフトウェアの起動方法」に進んでください。

Linux と Macintosh の場合

- ターミナルを起動して、カレントディレクトリを `ENVI/IDL` インストールディレクトリのアクティベーションユーティリティのディレクトリに設定してください。

Linux : `<INSTALL_DIR>/envi%xx/idl%xx/license_utils/bin.linux.x86_64`

Macintosh : `<INSTALL_DIR>/envi%xx/idl%xx/license_utils/bin.darwin.x86_64`

※`<INSTALL_DIR>`はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは `Linux` は

/usr/local/harris、Macintosh は/Applications/harris です。
※xx はバージョンを示します。

【入力例：Linux のデフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/envi56/idl88/license_utils/bin.linux.x86_64/
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンス認証を実行します。

```
./activate -a activation-code [-q quantity]
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX でライセンス数 1 の場合】

```
# ./activate -a XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -q 1
```

ライセンス認証が完了したら ENVI/IDL を起動します。P33 「ソフトウェアの起動方法」に進んでください。

ライセンスサーバとして認証する

ライセンスサーバとしてライセンス認証を行う際には、P25 「ライセンスサーバ認証の注意事項」を確認し、P25 「Flexnet License Server をダウンロードする」、P25 「Flexnet License Server をインストールする」を実施して、正しく認証してください。

Windows の場合

Windows のコマンドプロンプトからコマンドを入力し、ライセンスを認証します。

1. コマンドプロンプトを起動してカレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>%flexnetls-x64_windows-xxxx.xx.x%enterprise
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:\Program Files\Harris です。

※xxxx.xx.x はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:\Program Files\Harris\flexnetls-x64_windows-2017.08.0\enterprise"
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを認証します。

```
flexnetlsadmin.bat -server http://server:port -activate -id xxxx-xxxx-xxxx-xxxx -count quantity
```

【入力例】

- ・サーバマシン名：localhost

- 使用する TCP ポート : 7070
- 認証コード : XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
- ライセンス数 : 1

```
# flexnetlsadmin.bat -server http://localhost:7070 -activate -id XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -count 1
```

3. 以上でライセンスの認証の完了です。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとしての設定が必要です。P32「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

```
# Server: 127.0.0.1 : 7070 has successfully activated: [{"id": " XXXX-XXXX-XXXX-XXXX", "copies": 1}]
```

Linux の場合

1. ターミナルを起動して、カレントディレクトリを **ENVI/IDL** インストールディレクトリの `flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise` ディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

※ <INSTALL_DIR> はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは `/usr/local/harris` です。

※ `xxxx.xx.x` はバージョンを示します。

【入力例 : デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを認証します。

```
./flexnetlsadmin.sh -server http://server:port -activate -id xxxx-xxxx-xxxx-xxxx -count quantity
```

【入力例】

- サーバマシン名 : localhost
- 使用する TCP ポート : 7070
- 認証コード : XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
- ライセンス数 : 1

```
# ./flexnetlsadmin.sh -server http://localhost:7070 -activate -id XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -count 1
```

3. 以上でライセンスの認証の完了です。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとして
の設定が必要です。P32「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

クライアントとしてライセンス認証する

1. ENVI/IDL インストールディレクトリのライセンスフォルダに o_licenseserverurl.txt という名
前のテキストファイルを作成します。

【インストールディレクトリがデフォルトの場合の例】

Windows の場合： C:¥Program Files¥Harris¥license¥o_licenseserverurl.txt
Linux の場合： /usr/local/harris/license/o_licenseserverurl.txt
Macintosh の場合： /Applications/harris/license/o_licenseserverurl.txt

2. 作成したテキストファイルに、テキストエディタなどを使用し以下の内容を記述して保存してく
ださい。

http://[license-server-hostname-or-IP-address]:7070/fne/bin/capability

【記述例】

http://myserver.mycompany.com:7070/fne/bin/capability

※ライセンスサーバのコンピュータ名が myserver.mycompany.com、TCP ポート 7070 を使
用する場合の例です。

3. 以上で設定の完了です。P33「ソフトウェアの起動方法」に進んでください。

コマンドラインを使ってライセンスを無効化する

マシン固定ライセンスの場合

Windows の場合

1. コマンドプロンプトを起動して、カレントディレクトリを ENVI/IDL インストールディレクトリ
のアクティベーションユーティリティのディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>¥ENVIxx¥IDLxx¥license_utils¥bin.x86_64
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:¥Program
Files¥Harris です。

※xx はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:¥Program Files¥Harris¥ENVI56¥IDL88¥license_utils¥bin.x86_64"
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。(quantity を 0 に入力して activate.exe を

実行します。)

```
activate.exe -a activation-code -q 0
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX でライセンス数 1 の場合】

```
# activate.exe -a XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -q 0
```

Linux と Macintosh の場合

1. ターミナルを起動して、カレントディレクトリを ENVI/IDL インストールディレクトリの license¥bin¥bin.x86_64 ディレクトリに設定してください。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/license/bin/bin.linux.x86_64/
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。(quantity を 0 に入力して activate を実行します。)

```
./activate -a activation-code -q 0
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX でライセンス数 1 の場合】

```
# ./activate -a XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -q 0
```

ライセンスサーバの場合

Windows の場合

1. 現在のライセンスを無効化します。コマンドプロンプトを起動して、カレントディレクトリを ENVI/IDL インストールディレクトリの アクティブバージョンユーティリティのディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>¥ENVIxx¥IDLxx¥license_utils¥bin.x86_64
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:¥Program Files¥Harris です。

※xx はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:¥Program Files¥Harris¥ENVI56¥IDL88¥license_utils¥bin.x86_64"
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。(quantity を 0 に入力して activate.exe を実行します。)

```
activate.exe -a activation-code -q 0
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX でライセンス数 1 の場合】

```
# activate.exe -a XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -q 0
```

Linux の場合

1. ターミナルを起動して、カレントディレクトリを ENVI/IDL インストールディレクトリの flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise ディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

※<INSTALL_DIR> はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは /usr/local/harris です。

※xxxx.xx.x はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。(quantity を 0 に入力して activate を実行します。)

```
./flexnetlsadmin.sh -server http://localhost:7070 -activate -id xxxx-xxxx-xxxx-xxxx -count 0
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX で TCP ポートが 7070 の場合】

```
# ./flexnetlsadmin.sh -server http://localhost:7070 -activate -id  
xxxx-xxxx-xxxx-xxxx -count 0
```

マシンを変更する

マシンの変更には、現在認証しているライセンスを無効化し、新しいマシンで認証する必要があります。以下の手順にてマシン変更を実施してください。

1. P48 「ライセンスを無効化する」を参照し、使用中のライセンスを無効化してください。
2. P22 「ソフトウェアのライセンス設定」を参照し、新しいマシンでライセンスを認証してください。

ライセンス数を変更する

すでにライセンス認証済みのマシンでも、ライセンスの無効化をすることなしに、認証するライセンス数を変更することができます。ライセンス認証済みのマシン上で、再度ライセンスの認証手順を実施します。このとき、**quantity** に任意の数（そのマシン上で認証したいライセンス数）を入力してください。以下に、**License Administrator** を使用した場合の例を記載します。

1. ライセンス認証済みのマシンで、P23「**License Administrator** の起動方法」を参照して **License Administrator** を起動してください。
2. 左側の **View Licenses** をクリックし、右側で任意のライセンスを選択します。**Show feature details** にチェックを入れると認証済みのライセンス数が確認できます。
3. ライセンス数を変更してライセンス認証します。マシン固定の場合は **Activate License** ボタンを、ライセンスサーバの場合は **Activate Licenses on this Server** ボタンをクリックしてください。
4. テキストボックスに認証コードを入力し、**quantity** にライセンス数を入力してください。

例えば、ある ENVI ライセンス（認証コードは1つ）のライセンス総数が5つで、1つのマシン上で5つすべてのライセンスを認証済みのとき、そのマシンで認証するライセンスを3つに変更するには、ここでは **quantity** を3と入力します。

5. ライセンスサーバの場合は **Server** と **Port** の入力を行ってください。
6. **Activate** ボタンをクリックしてください。ライセンス数の変更が完了します。

ライセンスの借用（Borrow）

クライアントマシンはライセンスサーバからライセンスを借用することができます。ライセンスを借用すると、デフォルトで7日間、最大60日間、クライアントマシンはローカルでライセンスを有効にすることができます。この機能は、例えば、出張などでライセンスサーバに接続できない場合などに有用です。指定した時間が経過すると、ライセンスは自動的にライセンスサーバに返却されます。

ご契約により **Borrow** 機能を制限しており使用できない場合があります。その際はライセンス管理者にお問い合わせください。

ライセンスの借用と返却

License Administrator を使用してライセンスを借用する

1. P23「**License Administrator** の起動方法」を参照して **License Administrator** を起動してください。
2. 左側の **Borrow License from a Server** をクリックします。
3. 右側の **Server** と **Port** に借用するライセンスサーバの情報を入力してください。
4. 借用する認証コードを選択します。（複数選択可）
5. **Borrow time (days)** と **Quantity** を入力してください。
6. **Borrow from Server** ボタンをクリックしてください。

License Administrator を使用してライセンスを返却する

借用したライセンスは期限がくると自動的に返却されますが、手動で借用しているすべてのライセンスを一括で返却することができます。**License Administrator** の **Borrow License from a Server** で **Return All Borrowed Licenses** ボタンをクリックしてください。

コマンドラインからライセンスを借用 / 返却する

Windows の場合

1. コマンドラインからライセンスを借用するには、コマンドプロンプトを起動し、カレントディレクトリを以下のディレクトリに変更してください。

Windows

ENVI : <INSTALL_DIR>%ENVI%xx%IDL%license_utils%bin.x86_64

IDL : <INSTALL_DIR>%IDL%license_utils%bin.x86_64

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:%Program Files%Harris です。

※xx はバージョンを示します。

2. 以下のコマンドを入力してライセンスを借用してください。

```
activate.exe -a activation-code -s serverName:serverPort -t seconds
```

-a : 認証コード

-s : ライセンスサーバ:ポート

-t : 借用期間 (秒単位 (1日は86400))

【入力例: 認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX でライセンスサーバが LicenseServer、TCPポートが 7070、1日借用する場合】

```
activate.exe -a XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -s LicenseServer:7070 -t 86400
```

3. 以下のコマンドを入力してライセンスを返却してください。

```
activate -r -s serverName:serverPort
```

-a : 借用しているすべてのライセンスを返却する

-s : ライセンスサーバ:ポート

【入力例】

```
activate -r -s LicenseServer:7070
```

Linux/Macintosh の場合

1. コマンドラインからライセンスを借用するには、ターミナルから、カレントディレクトリを以下のディレクトリに変更してください。

Linux/Macintosh

ENVI : <INSTALL_DIR>/envixx/idlxx/license_utils/bin.x86_64

IDL : <INSTALL_DIR>/idlxx/license_utils/bin.x86_64

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは Linux は /usr/local/harris、Macintosh は/Applications/harris です。
※xx はバージョンを示します。

2. 以下のコマンドを入力してください。

```
./activate -a activation-code -s serverName:serverPort -t seconds
```

-a : 認証コード
-s : ライセンスサーバ:ポート
-t : 借用期間 (秒単位 (1日は86400))

【入力例: 認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX でライセンスサーバが LicenseServer、TCPポートが 7070、1日借用する場合】

```
./activate -a XXXX-XXXX-XXXX-XXXX -s LicenseServer:7070 -t 86400
```

3. 以下のコマンドを入力してライセンスを返却してください。

```
./activate -r -s serverName:serverPort
```

-a : 借用しているすべてのライセンスを返却する
-s : ライセンスサーバ:ポート

【入力例】

```
./activate -r -s LicenseServer:7070
```

故障などでマシンにアクセスできなくなった場合

ライセンス認証しているマシンが故障などの理由でアクセスできず、ライセンスの無効化ができなくなった場合は、support_jp@L3harris.com より技術サポートにお問い合わせください。

お問い合わせ先

ENVI/IDLのインストールとライセンスングに関するご質問は、以下テクニカルサポート宛てにお問い合わせください。

Harris Geospatial株式会社

製品技術サポート担当

Email : support_jp@L3harris.com

